浦幌町立博物館

年報

第10号

Historical Museum of Urahoro

2010
3

浦幌町立博物館

年報

第10号

Historical Museum of Urahoro

2010
3

序

『浦幌町立博物館年報』第10号をお届けします。本書は、2008（平成20）年度における本館の活動状況をとりまとめたものです。本年度におきましても、企画展や各種講座を開催して参りました。それぞれの事業内容につきましては、本書をご一読していただければ幸いに存じます。本館におきましては、おおむね充実した１年であったと考えております。

博物館は、地域の歴史や文化、自然など共有の財産の保護、活用を図り、これらに関する調査研究を通じて、生涯学習の場として町民の皆様に情報を提供して、長い年月にわたって築き上げられた貴重な財産を次の世代に引き継ぎ、伝えていかなければならないと思っております。

しかしながら、地方自治をとりまく環境は一段と厳しく、本町におきましても厳しい財政事情となっております。常設展示の更新、入館者数の伸び悩みなど、解決しなければならない課題はありますが、町民の皆様に親しまれるよう、地域と連携をして魅力ある博物館にして参りたいと思います。

最後になりましたが、本館の管理運営に種々ご指導いただきました町民の皆様をはじめ、町立博物館協議会委員の皆様、そして資料を提供して頂きました皆様、企画展、各種講座に参加下さいました皆様、本館に足を運んで下さった多くの皆様に深く感謝を申し上げ、序といたします。

2010年３月

浦幌町立博物館長　**小路谷　守　昌**

●本 文 目 次

序…… i
目　次…… ii
Ⅰ．施設の概要…… 1
Ⅱ．常設展示構成…… 2
Ⅲ．資料の受け入れ……13
　(1) 受 贈 資 料 ……13
　(2) 採 集 資 料 ……14
　(3) 受贈図書資料 ……15
Ⅳ．資料の提供……21
Ⅴ．博物館の事業……22
Ⅵ．レファレンス業務……31
Ⅶ．博物館ボランティア……31
Ⅷ．博物館日誌（抄）……32
Ⅸ．博物館の利用状況……35
Ⅹ．博物館の組織……36
Ⅺ．博物館活動のマスコミ報道……37
Ⅻ．条例、教育委員会規則、教育委員会規程……45
ⅩⅢ．平成２０年度予算……57

●写 真 目 次

PL. 1　自然の姿と風景写真展 ……24
PL. 2　端午の節句写真撮影会 ……24
PL. 3　ニードル・フエルト教室 ……24
PL. 4　草履づくり体験教室 ……25
PL. 5　チョウ採集と標本づくり教室 ……25
PL. 6　チョウ採集と標本づくり教室 ……25
PL. 7　小企画展「真夏の残像・・・あの夏の熱き想い・・・戦争体験を伝える」 ……26
PL. 8　恐竜絶滅の謎を探る　K/T境界層見学会 ……26
PL. 9　恐竜絶滅の謎を探る　K/T境界層見学会 ……26
PL.10　フォトサークル・２１　１０周年記念写真展 ……27
PL.11　巡回展「昔の博物館：なつかしのレコード」 ……27
PL.12　浦幌中学校職業体験 ……27
PL.13　博物館見学 ……28
PL.14　移動展　とかちを記録する ……28
PL.15　むかしのくらし体験教室 ……28
PL.16　アイヌ文化伝承工芸展 ……29
PL.17　２００９年賀状展 ……29
PL.18　移動自然厳寒体験教室 ……29
PL.19　ひなまつり撮影会 ……30
PL.20　レザークラフト教室 ……30

●図 版 目 次

Fig. 1　常設展示ゾーニング図 …… 5
Fig. 2　ヒグマシンボル図 …… 5
Fig. 3　K-T境界 …… 6
Fig. 4　十勝川下流域の地質時代史 …… 6
Fig. 5　北海道の初期の土器文化 …… 7
Fig. 6　シベリアから来た石刃鏃文化 …… 7
Fig. 7　十勝太若月遺跡土坑墓配置図 …… 8
Fig. 8　続縄文文化と墓 …… 8
Fig. 9　擦文ムラと住居 …… 9
Fig. 10　擦文文化の鉄と農耕 …… 9
Fig. 11　いろいろな土器 ……10
Fig. 12　いろいろな石器 ……10
Fig. 13　チャシ ……11
Fig. 14　送り場 ……11
Fig. 15　トカチの成立とトカチ場所 ……12
Fig. 16　オヘチコカシ村の成立と初期の開墾 ……12

Ⅰ．施設の概要

名　　称　浦幌町立博物館　（英文表記 Historical Museum of Urahoro）
所 在 地　〒089-5614 北海道十勝郡浦幌町字桜町16番地の１
電　　話　015-576-2009（直通）　　015-576-2111（代）　EXT.542
ファックス　015-576-2452
ホームページアドレス
http://www.library.ne.jp/raporo21/
メールアドレス
raporo21@poppy.ocn.ne.jp
建物構造　鉄筋コンクリート造・地上２階建　　最高の高さ 10.45m（最高軒高 9.70m）
総 工 費　983,514千円　（備品購入費を含む）
敷地面積　4,575.907㎡
建築面積　1,804.34㎡
延床面積　2,542.17㎡　（１階：1,518.48㎡　２階：1,023.69㎡）

博物館単独スペース		博物館・図書館・教育委員会事務局共有スペース	
常設展示室	378.56㎡	視聴覚室	172.90㎡
学芸員室	45.50㎡	調整室	19.98㎡
整理室	78.40㎡	キッズルーム	7.29㎡
写真室	19.50㎡	１階ホール	182.17㎡
収蔵庫	71.50㎡	２階ホール	166.50㎡
計	593.46㎡	会議室	63.00㎡
		書庫	29.75㎡
		機械室	31.08㎡
		休憩室	11.55㎡
		計	684.22㎡

駐 車 場　正面　普通乗用車用 23台分（うち身体障害者用 2台分）
裏面　普通乗用車用 19台分
計　42台分
開館時間　午前10時～午後５時
休 館 日　月曜日・祝日・年末年始・その他館長が認めた日
入 館 料　無料
交　　通　・ＪＲ根室線浦幌駅下車 徒歩５分
・とかち帯広空港から車で約 60分
・十勝バス帯広浦幌線「中央広場」下車 徒歩３分
施設設備　エレベーター　１基
車　椅　子　２台
常設展示室設備
プロローグ音響システム

アオサギ営巣地ジオラマ音響システム
ＤＶＤによる100インチ映像システム
浦幌町の概要紹介（町の概要・町の花鳥木・産業・イベント・文化・歴史）
５つのエリア（上浦幌・中浦幌・市街地・下浦幌・東部地区）
施設紹介メインマップ
映像情報メニュー（遺跡探検・浦幌川河口から源流まで・野鳥観察・浦幌の四季）
ポイント情報メニュ（自然観察・先史遺跡・チャシ跡観察ポイント）
ＤＶＤ映像システム（うらほろの歴史・十勝ゆかりの人々・地図でたどるうらほろ）
開拓獅子舞音響システム

Ⅱ．常設展示構成

博物館の常設展示は、次の６コーナーで構成されている。

Ⅰ．自然からのメッセージ（プロローグ）
Ⅱ．アオサギの世界
Ⅲ．十勝・浦幌の自然誌
Ⅳ．石器と土器の文化
Ⅴ．アイヌのくらし
Ⅵ．十勝・浦幌のあゆみ

これらのコーナーはそれぞれ、次のような展示から構成される。

Ⅰ	1	魚	ヤマメ、イワナ、フクドジョウ、イバラトミヨ、ハナカジカ、イトウ、チョウザメ
	2	昆虫	
	3	鳥	オオヒシクイ、ノスリタカ、クマゲラ、キレンジャク、ヤマセミ、オオルリ、アマサギ、カワアイサ②
	4	花	ウラホロイチゲ
Ⅱ	1	アオサギの世界	アオサギジオラマ展示、採捕中のアオサギ、飛行中のアオサギ
	2	浦幌町の自然	月別平均気温と雨量、浦幌の四季
	3	鳥類個体展示	エゾフクロウ、オオコノハズク、コノハズク、クマタカ、カケス、アカショウビン、コルリ、メジロ、センダイムシクイ、ツミタカ、チゴハヤブサ、エゾライチョウ♂、エゾライチョウ♀、マガモ、コガモ、オシドリ、オオワシ
Ⅲ	1	デジタルマップ100インチ映像システム	(1) 浦幌町の概要紹介〔町の概要、町の花・鳥・木、町の産業、祭り、文化など〕 (2) ５つのエリア〔上浦幌地区・中浦幌地区・市街地・下浦幌地区・東部地区〕 (3) 施設紹介メインマップ〔メインマップ、マップのズームアップ、市街地マップ、施設情報〕

Ⅲ	1	デジタルマップ100インチ映像システム	(4) 映像情報メニュ〔遺跡探検、浦幌川−河口から源流まで−、野鳥観察、浦幌の四季〕 (5) ポイント情報メニュ〔自然観察ポイント、先史遺跡ポイント、チャシ跡観察ポイント〕
	2	十勝川下流域の地質時代史	十勝川下流域の河岸段丘
	3	十勝川下流域の地質時代史	K - T境界、デスモスチルス想像図、デスモスチルス臼歯化石③、化石
Ⅳ	1	発掘の様子	発掘前、測量、表土の剥ぎ取り、発掘、住居跡覆土採取用メッシュ、住居跡の発掘、地層の図面つくり、出土した土器、固形剤塗り、住居床面の土の採取、住居跡全景、実測、土の天日乾燥、極小品の選別②、ラジコンヘリコプターによる空中撮影・整理・水洗い、図面つくり、報告書の完成
	2	十勝太若月遺跡土坑墓	土坑墓ジオラマ展示
	3	北海道の先史文化のうつりかわり	図入り年表
	4	北海道の初期の土器文化	研究のはじめ、尖底土器と平底土器、河野広道、澤四郎、テンネル・暁式土器群、下頃辺式土器
	5	シベリアから来た石刃鏃文化	研究のはじめ、北海道の石刃鏃文化遺跡、シベリアの石刃鏃文化遺跡、斎藤米太郎、名取武光、浦幌式土器、石刃鏃、石核、石錐、掻器、削器、石刃槍、彫器、石錘、砥石、敲石、石斧
	6	続縄文文化と墓	続縄文文化と十勝太若月遺跡、墓の大きさ較べ、土坑墓52の配置図、十勝太若月遺跡の土坑墓、続縄文時代前期の土器、後北C_1式土器、コハク製玉類、ガラス小玉、砥石、銛先
	7	擦文ムラと住居	住居と生活用具、十勝の擦文文化遺跡、擦文文化の遺跡分布、十勝太若月遺跡、十勝太地区の擦文住居跡分布、擦文住居の復元図、擦文土器、柱、木器、紡錘車
	8	擦文文化の鉄と農耕	鉄と農耕の普及、全道各地出土の鞴の羽口、擦文時代の植物栽培図、鉄斧、刀子、鉄滓、オオムギ・キビ・シソの炭化種子、オニグルミ堅果
	9	いろいろな土器	縄文文化と土器、作り方、形、文様、変遷
	10	いろいろな石器	石器の材料、作り方、黒曜石原材産地、使い方
	11	十勝の著名遺跡	八千代A遺跡、下大樹遺跡、十勝ホロカヤントー竪穴群、ユクエピラチャシ跡、広尾仙台藩陣屋跡
	12	土器の個体展示	縄文土器⑥、続縄文土器⑥、擦文土器⑥
Ⅴ	1	アイヌのくらし	アイヌ酒宴の図、マレク漁の図、蝦夷島奇観
	2	チャシ	史跡オタフンベチャシ跡、礼文内神社チャシ跡、アツナイチャシ跡、チプネオコッペチャシ跡、十勝川口チャシ跡、十勝太Dチャシ跡、旅来チャシ跡、安骨チャシ跡、霧止山チャシ跡、帯富チャシ跡、稲穂チャシ跡
	3	伝製品	シントコ③、イタ、ニンカリ、イクパスイ③、タマサイ③、ツキ、バッチ、エムシ
	4	送り場	十勝太海岸段丘遺跡出土品

Ⅵ	1	トカチの成立とトカチ場所	正保日本図、トカチ場所の主な産物、松浦武四郎、最上徳内、近藤重蔵、トカチ御場所山川沼地名里数粗絵図扣
	2	オヘチコカシ村の成立と初期の開墾	７郡51ヶ村のうつりかわり、殖民地区画作業、河合牧場、岐阜農場、開墾風景、サケ漁、斎藤漁場
	3	新しいムラづくり	下浦幌市街都市計画図、明治43年主要市街地戸数人口、戸長役場、浦幌駅開業、第一浦幌尋常小学校と養老尋常小学校との連合運動会、黒岩農場、斎藤牧場
	4	新しいマチづくり	昭和27年十勝沖大震災で震度７を記録、昭和24年ころの市街大通り、開村50年記念乳牛共進会、校内マラソン、昭和35年チリ地震による津波の被害、森永乳業、ロランＣ局、市街商店街、開町70年記念パレード、十勝バス運行風景
	5	着る	蓑、くけ台、ミシン、火のし、ハンドバッグ、開墾たび、アイロン、バスケット、深わら靴
	6	食べる	膳、櫃、食器、木鉢、砂糖入れ、重ね鉢、弁当箱、石臼、壷、鉄びん、カツオ削り器、野菜削りカンナ
	7	住む	ローソク立て、自在鍵、石油ランプ、柱時計、手下げランプ、ネズミ捕り、電気アンカ、薬箱
	8	農	亜麻播種器、一斗桝、からさお、風呂鍬、窓鍬、平鍬、豆播種器
	9	林	トビ、村田銃、ガンタ、サッティ、刃広、くさび、柾打ち用具、窓鋸、天王寺鋸
	10	鉱	キャップランプ、革手袋、ベルト、ガス自動警報器、測風器微風計、工類表入れ、工類表、安全靴、携帯用ガス警報器、風測計、携帯用坑内誘導無線機、カンテラ、一酸化炭素検知管、救命器
	11	浦幌開拓獅子舞	住吉神社と加賀団体開拓紀念碑、浦幌開拓獅子舞、浦幌開拓獅子舞の獅子頭、稲穂獅子舞の獅子頭、初期の浦幌開拓獅子舞の姿、浦幌開拓獅子舞おはやしの音響
	12	生活資料ディスプレイ	ラジオ、選択バサミ、算盤、下駄、かんじき、ノンコ、ＳＰレコード盤、藁靴の型、提灯用箱、湯たんぽ
	13	37インチ映像コーナー	うらほろの歴史、十勝ゆかりの人々、地図でたどるうらほろ

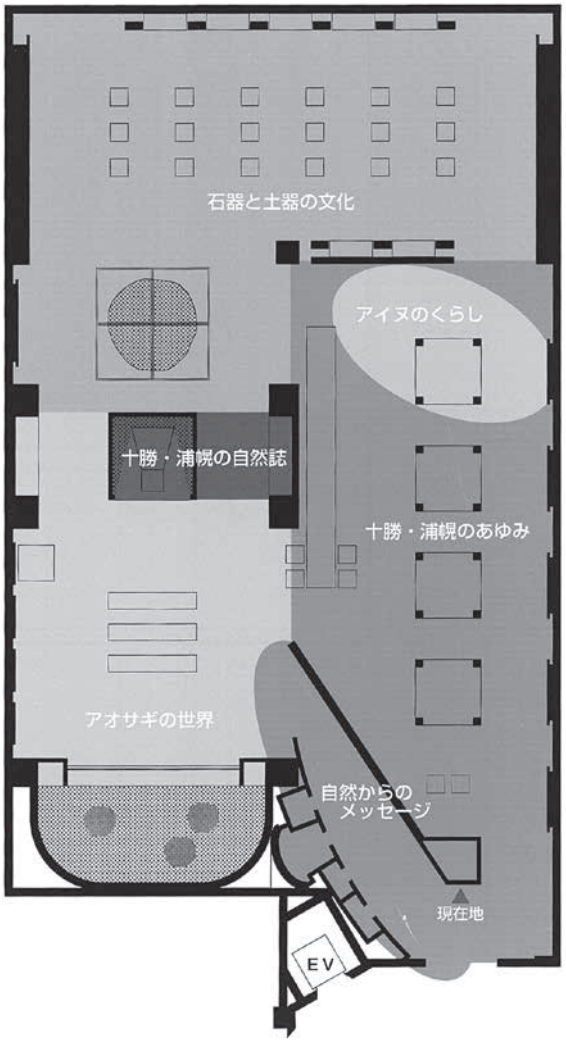


Fig.1　常設展示ゾーニング図

Fig.2　ヒグマ　シンボル図

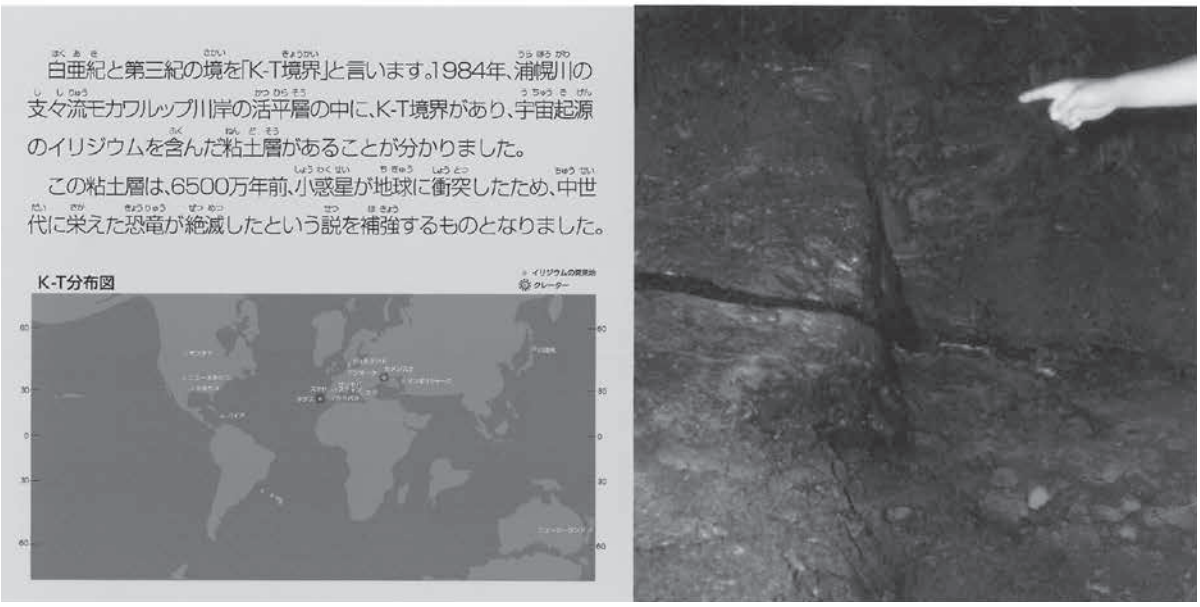


Fig.3　K - T境界

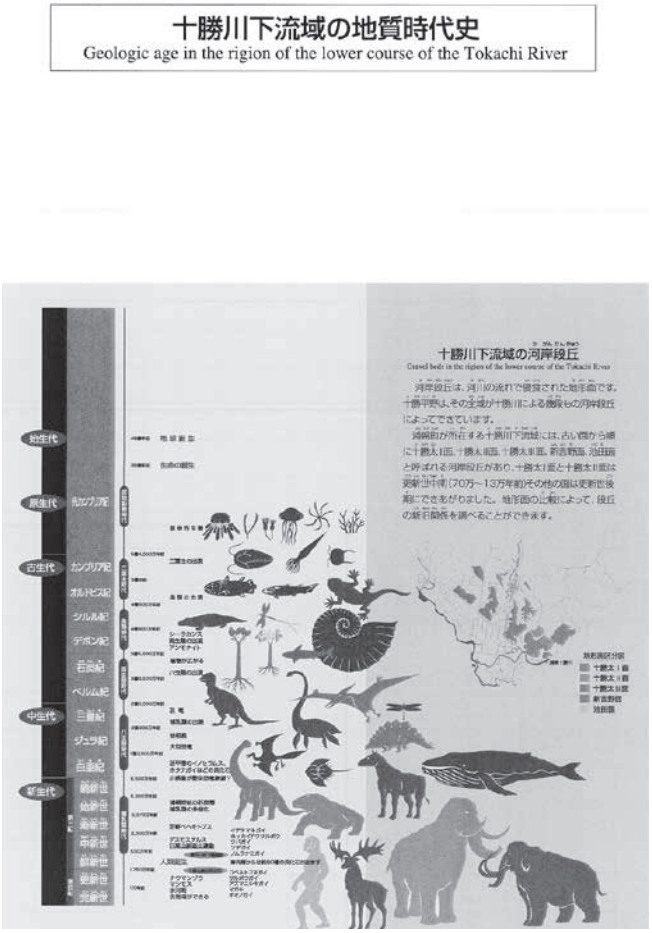


Fig.4　十勝川下流域の地質時代史

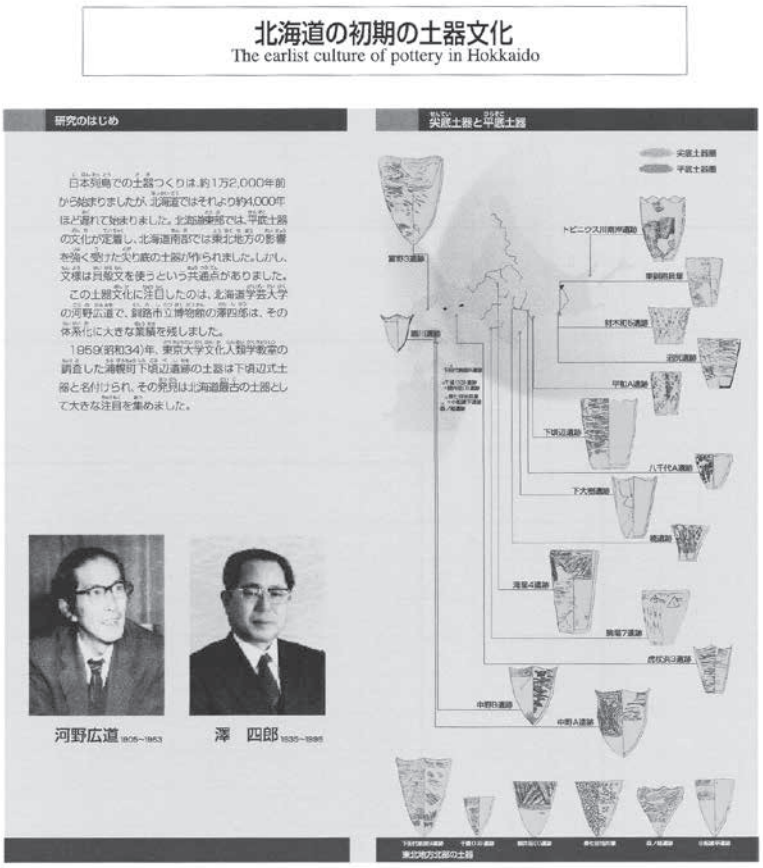


Fig.5　北海道の初期の土器文化

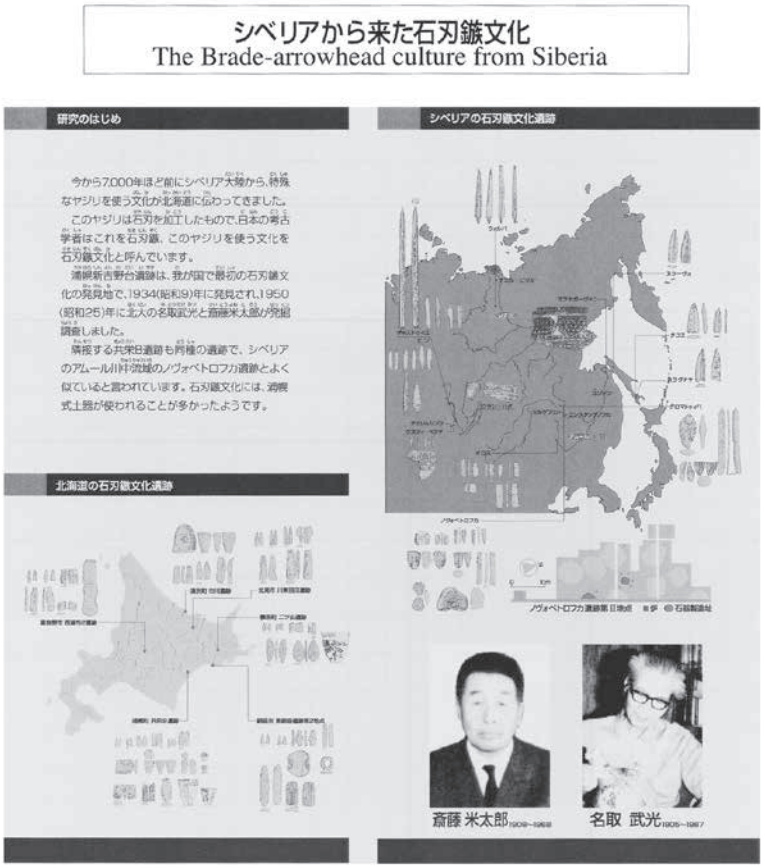


Fig.6　シベリアから来た石刃鏃文化

Fig.7　十勝太若月遺跡土坑墓配置図

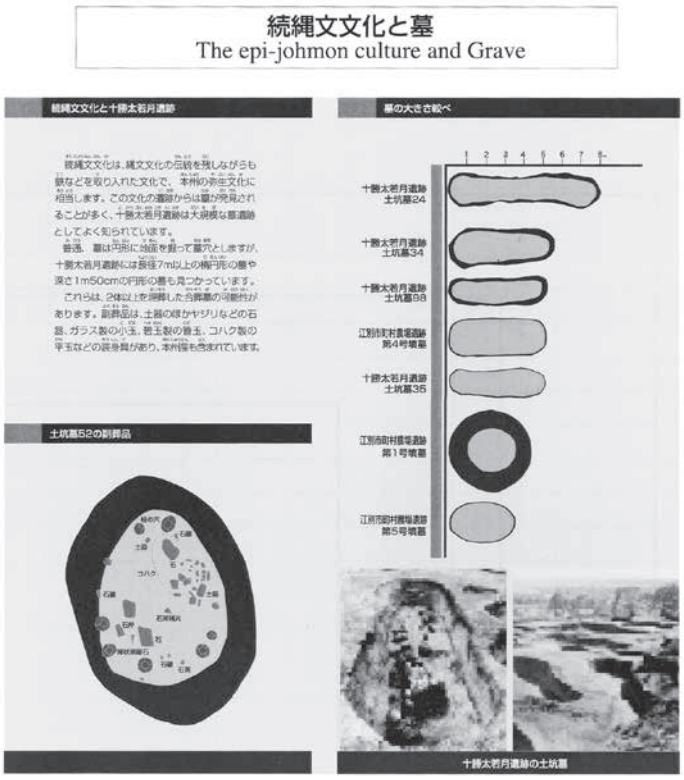


Fig.8　続縄文文化と墓

Fig.9　擦文ムラと住居

Fig.10　擦文文化の鉄と農耕

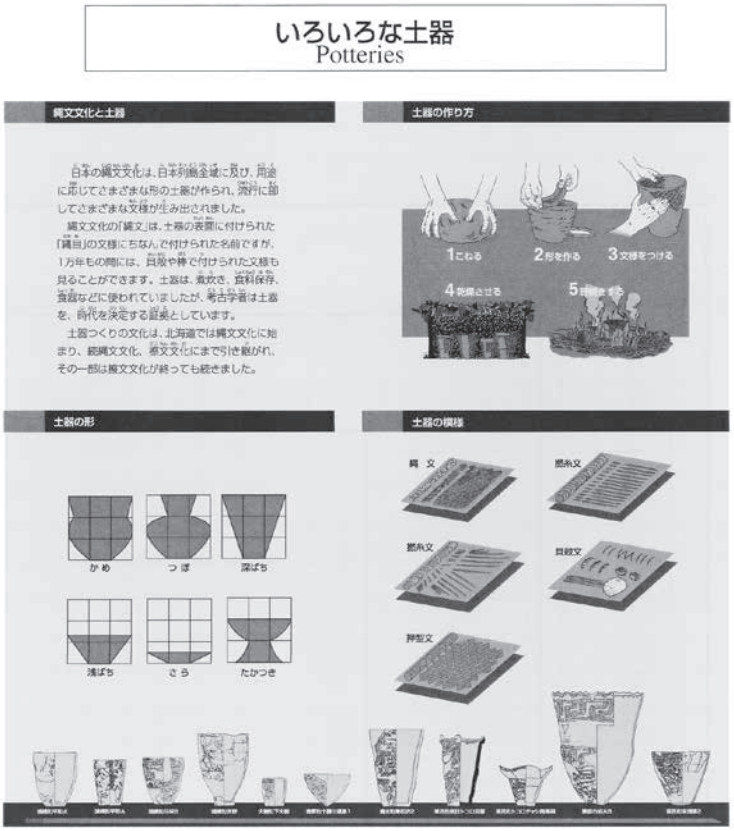


Fig.11　いろいろな土器

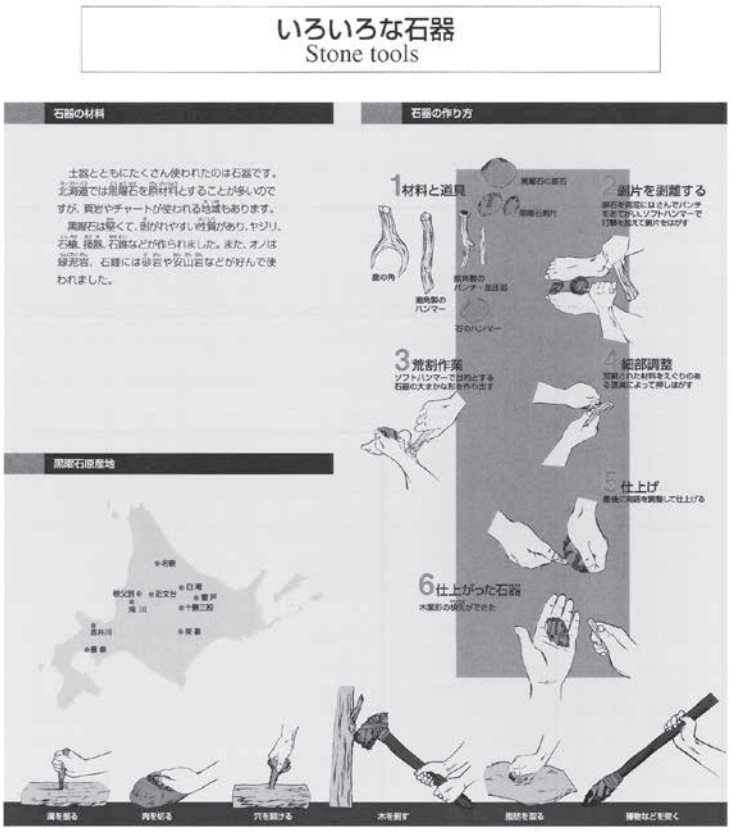


Fig.12　いろいろな石器

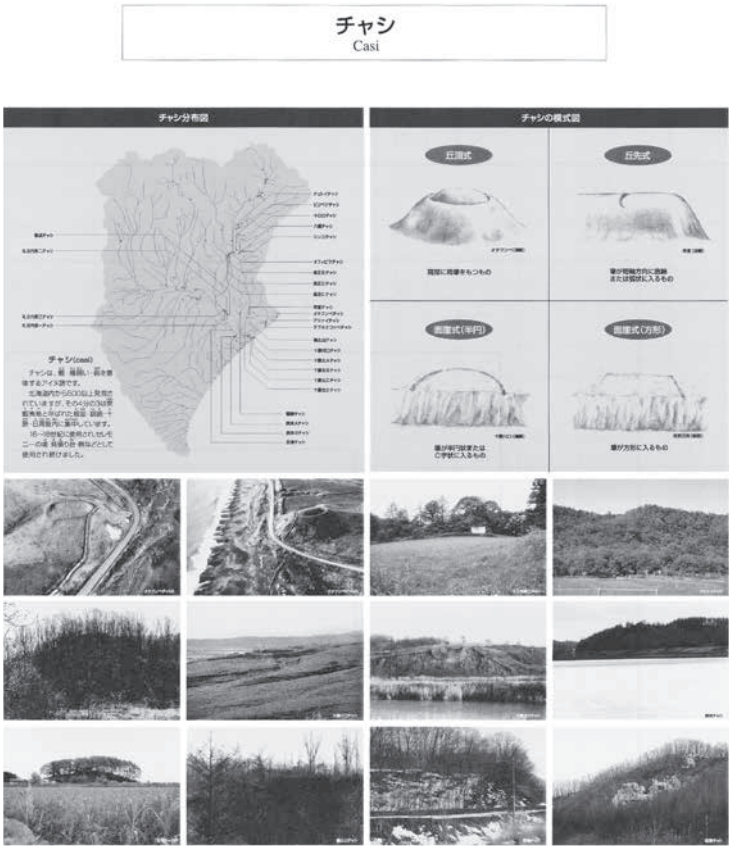


Fig.13　チャシ

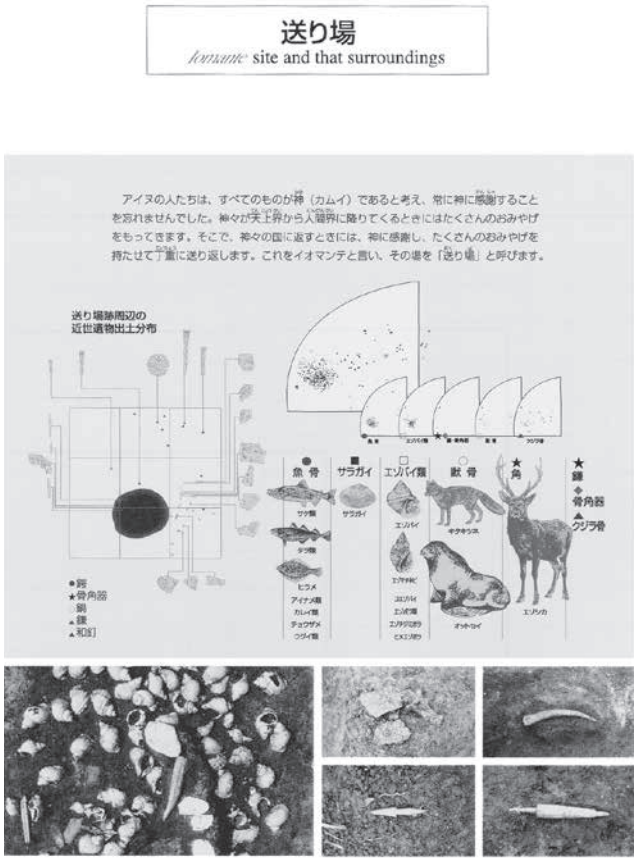


Fig.14　送り場

Fig.15　トカチの成立とトカチ場所

Fig.16　オヘチコカシ村の成立と
初期の開墾

Ⅲ．資料の受け入れ

（1）受贈資料

月　日	氏　　名	住　　所	品　　名	数量
4・30	佐　藤　喜　和	日　本　大　学	卒業論文３、修士論文	4
5・1	浦幌町まちづくり政策課	浦幌町字桜町	北海道立浦幌高校写真、浦幌高校 CD-ROM	2
6・13	君　　尹　彦	江別市大麻栄町	縮尺定規４、三角定規２、物差し	7
6・19	浦幌町まちづくり政策課	浦幌町字桜町	降雨災害写真 CD-ROM	2
7・15	浦幌町産業課	浦幌町字桜町	昭和52年４月厚内漁港写真	1
7・22	浦幌町まちづくり政策課	浦幌町字桜町	祝　厚内トンネル開通記念式典綴、浦幌町勢要覧	2
9・18	佐　藤　芳　雄	浦幌町字住吉町	小杉地区獅子舞演技～青少年道外交流事業～、富山県獅子舞、浦幌小学校獅子舞クラブ　VHS	3
11・11	渡　邊　　道	浦幌町字十勝太	釧勝地区漁協創立50周年記念誌　潮流21　50人が語り継ぐ汗・想い、未来へ羽ばたく人びとに－北海道戦争体験者の手記－	2
11・11	下　坂　マツヱ	浦幌町字万年	草履（手作り、布・とうきび皮）	1
12・10	図　　書　　館	浦幌町字桜町	平成元年浦幌町文化祭、北海道浦幌町獅子舞交流富山県氷見市立薮田小学校　VHS	2
12・15	川　田　秀　幸	浦幌町字北町	計算尺４、計算尺実習テキスト、一般事務・技術用使用法説明書２	7
12・15	幕別町ふるさと館	幕　別　町	幕別町ふるさと館30周年記念丸木舟　CD-ROM	1
1・30	浦幌町まちづくり政策課	浦幌町字桜町	ＮＨＫ総合テレビ「ほっからんど北海道」～この街この笑顔～で浦幌町を紹介します！	1
2・2	東　等　義　光	浦幌町字活平	チョウ	132
2・12	福　原　仁　子	浦幌町字光南	沖揚げ音頭　CD-ROM	1
2・12	新ひだか町教育委員会三石分室	新ひだか町三石	福井放送・三石町歌笛、歌笛越前踊り保存テープ　キリキリシャン・ヤンコラセ・スッチョチョイ　VHS　三石町の郷土芸能三石町歌笛越前踊り	3
3・13	佐　藤　喜　和	日　本　大　学	卒業論文９、修士論文	10

（2）採集資料

月　日	資　　料　　名	数量	摘　　要
5・1	チラシ	1	地域の明日を考える生涯学習フォーラム
5・1	ＪＲ列車時刻表	2	2000-7、2008-4
7・14	チラシ	1	うらほろもみじ新メニュー発売記念イベント!!
7・14	チラシ	1	2008こども祭り　浦幌町商工会青年部
7・14	ポスター	1	エコ・ギャラリー　北海道地方環境事務所
7・15	ポスター	1	北海道洞爺湖サミット
7・15	ポスター	1	北海道洞爺湖サミットおもてなしクリーンアップ運動
7・15	ポスター	1	もっとエコなとかちづくり2008
7・15	カレンダー	1	2008浦幌町・浦幌町商工会
7・15	ポスター	1	北海道洞爺湖サミット　道民会議2008
7・22	第48回浦高祭	1	北海道立浦幌高等学校
7・22	ポスター	1	第48回浦高祭「はじける笑顔の浦高祭」
7・22	チラシ	1	第18回ふるさとの夏まつり
9・3	帯広百年記念館移動展リーフレット	1	とかちを記録する
9・18	日本の原風景−遺跡にみる暮らしと文化−	1	ＶＨＳ
9・18	アイヌ文化を学ぶ	1	ＶＨＳ
9・18	川紀行	1	ＶＨＳ
10・8	G8北海道洞爺湖サミット2008	1	国内広報課2008.9
10・8	チラシ	1	第33回ふるさとのみのりまつり　浦幌観光協会
10・8	十勝の伝統芸	1	ＶＨＳ
10・8	浦幌町開町100年記念町制要覧	1	1999（平成11年）
10・8	チラシ	1	第３回日立建機フェスティバル
10・31	チラシ	1	浦幌店オープン　Homacグループツルヤ
12・5	祝 浦幌町開基90年記念式典	1	平成元年（1989）
12・5	祝 浦幌町開基100年記念式典	1	平成11年（1999）
12・5	浦幌町まちづくり計画	1	昭和62年３月　浦幌町役場総務部企画振興課
2・5	チョウ	6	ミドリシジミなど
3・30	広報　Urahoro №672〜683	12	浦幌町まちづくり政策課広報広聴係

（3）受贈図書資料

【北　海　道】

北海道開拓記念館

北海道開拓記念館調査報告書　第47号
北海道開拓記念館研究紀要　第36号
北海道開拓記念館要覧　平成19年度
北海道開拓記念館だより　198～202号
地方の資源をめぐる先住者と移住者の近現代史
古代北方世界に生きた人びと－交流と交易－

北海道立アイヌ民族文化研究センター

北海道立アイヌ民族文化研究センター年報2007
アイヌ語地名を歩く－山田秀三の地名研究から－2008
アイヌ民族文化研究センターだより　№28・29

北海道立文学館報

北海道立文学館報　第73号

北海道立文書館

赤れんが　№44

北海道大学総合博物館

北海道大学総合博物館年報　平成18・19年度
北海道大学総合博物館ニュース　第17・18号
カレン・チャペックその生涯と時代
水産科学館に蓄積された水産学部100年の歴史
原松次植物標本コレクション目録
洞爺湖・有珠火山地域の環境と資源
ライマンと北海道の地質－北からの日本地質学の夜明け－
先人の手あと 北大所蔵アイヌ資料－受けつぐ技－

㈶北海道埋蔵文化財センター

調査年報２Ⅰ
㈶北海道埋蔵文化財センター年報　9
幌延町　音類竪穴群
北斗市　矢不来６遺跡（２）．矢不来９遺跡.矢不来11遺跡
下川町　サンル４線遺跡
むかわ町　穂別Ｄ遺跡
白滝遺跡群Ⅸ

北海道博物館協会

道博協ニュース　第92～94号

北海道教育大学

北海道教育大学紀要　自然科学編
　第58巻　第２号
北海道教育大学紀要　自然科学編
　第59巻　第１号
北海道教育大学紀要　人文学・社会科学編
　第58巻　第２号
北海道教育大学紀要　人文学・社会科学編
　第59巻　第１号

北海道大学

北大構内の遺跡XV
埋蔵文化財調査室ニュースレター　第１・２号
リテラ　ポプリ　35号

北海道大学ヒグマ研究グループ

ひぐま通信　第41号

北海学園大学

学園論集　第135～137号
開発論集　第81号
開発研究所　五十年度

札幌学院大学

札幌学院大学学芸員課程年報　２Ⅰ

㈶アイヌ文化振興・研究推進機構

平成20年度アイヌ語ラジオ講座テキストVol.１～４
平成21年度アイヌ語ラジオ講座テキストVol.1
普及啓発セミナー報告集　平成19年度
普及啓発講演会報告集　平成19年度
平成20年度　財団のあらまし
平成19年度　財団の活動
第12回　アイヌ語弁論大会報告書イタカンロー
平成21年度版
㈶アイヌ文化振興・研究推進機構助成事業案内
（伝統工芸展示公開・複製助成事業編）
（国内・国際文化交流助成事業編）
（研究・出版助成事業編）
パイェアンロ
Ｐaye = an ro
くまのしっぽがみじかくなったわけ
アイヌの人たちとともに－その歴史と文化－

アイヌ民族：歴史と現在－未来を共に生きるために－
イオル再生事業（白老地域）事業実施報告
アイヌの工芸－ペンシルバニア大学考古学人類学博物館ヒラーコレクション－
トヌペカランラン－ちりゆきえのアイヌしんようしゅうより－

北海道報徳社
北海道報徳社情報　第338～343号

北海道文化財保護協会
北海道の文化　Vol.80

中垣哲也
オーロラに包まれる至福の瞬間

利尻町立博物館
利尻研究　第28号

名寄市北国博物館
名寄市　智北６遺跡

留萌市海のふるさと館
留萌市海のふるさと館紀要　第19号

中原悌二郎記念旭川市美術館
平成18年度　中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館年報

江別市郷土資料館
江別市郷土資料館年報Vol.８

層雲峡ビジターセンター
層雲峡ビジターセンターだより　№32～34

北海道立北方民族博物館
北海道北方民族博物館研究紀要　第18号
平成19年度　年報
北方民族博物館だより　№69～72
トーテムの物語～北西海岸インディアンのくらしと美～
北太平洋の文化－北方地域の博物館と民族文化－③

斜里町教育委員会
朱円26遺跡･オクシベツ６遺跡･ウナベツ24遺跡
シュマトカリペツ12遺跡・シュマトカリペツ13遺跡・峰浜８線遺跡
朱円42遺跡

美幌町教育委員会
美幌町埋蔵文化財各種開発確認調査報告書
美富３遺跡

美幌農業館・博物館
美幌博物館研究報告　第14・15号
2006　美幌農業館・博物館年報
2007年度　博物館自然講座
2007年度　自然を語ろう！びほろふるさと体験隊
博物館フォーラム　「移入昆虫からふるさとの自然を考える」
グリーンレター　第136～146号

標津町教育委員会
平成19年度
史跡　標津遺跡群伊茶仁カリカリウス遺跡

中標津町郷土館
中標津町郷土館だより　第19・20号

別海町郷土資料館
別海町郷土資料館だより　№103～113

標茶町郷土館
標茶町郷土館報告　第20号

標茶町教育委員会
ウラヤ遺跡越善地点調査報告書

厚岸町海事記念館
厚岸海事記念館通信　№８～10

釧路市博物館
釧路市博物館紀要　第32輯
釧路市博物館報　№398・399

釧路市教育委員会阿寒生涯学習課
阿寒国際ツルセンター紀要　第7巻

鈴木紀美代
父からの伝言

えりも町郷土資料館
19年度　えりも町郷土資料館ほろいずみ・えりも町漁業振興センター館水産の館活動報告書
えりも研究　第５号

平取町立二風谷アイヌ文化博物館
2006年度　平取町立二風谷アイヌ文化博物館年報

沙流川歴史館
沙流川歴史館年報　第９号
沙流川歴史館だより　№29～32

日高町教育委員会
チャラセナイ遺跡
厚真町教育委員会
上幌内モイ遺跡（３）
ニタップナイ遺跡（１）
鯉沼３遺跡（３）
恵庭市郷土資料館
恵庭市郷土資料館年報　第14号
安平町教育委員会
安平町　富岡６遺跡・源武15遺跡
登別市教育委員会
登別市　富岸川右岸遺跡
いしかり砂丘の風資料館
エスチュアリ　№32～34
苫小牧市博物館
苫小牧市博物館報　第５号
苫小牧市博物館だより　№57
有島記念館
有島記念館　第５・６・７号
小樽市博物館
小樽市博物館紀要　第22号
稲垣益穂日誌　29巻
蜃気楼の神秘を探る
森町教育委員会
町内遺跡発掘調査事業報告書１　鷲ノ木遺跡
駒ケ岳１遺跡
鷲ノ木遺跡　第14集
鷲ノ木遺跡　第15集
上ノ国町教育委員会
町内遺跡発掘調査等報告書Ｘ
町内遺跡発掘調査等報告書XI
史跡　上之国勝山館跡整備事業報告書Ⅰ
史跡　上之国勝山館跡整備事業報告書Ⅱ
史跡　上之国館跡Ⅰ
市立函館博物館
市立函館博物館研究紀要　第18号
没後100年　榎本式場－箱館戦争の光と影－
ＳＡＲＡＮＩＰ　№47
函館教育委員会
函館市　臼尻小学校遺跡・豊崎遺跡群
函館市埋蔵文化財事業団発掘調査報告書第３輯桔梗２遺跡
函館市埋蔵文化財事業団発掘調査報告書第４輯桔梗２遺跡
北海道立函館美術館
北海道立函館美術館年報　2005 - 2006年度
ＳＨＯ21世紀のかたち「現代書の展開」
絵本作家ワンダーランド
煌めく生の炎　鎌田俳捺子展
星の降る百年記念館
平成19年度版　年報
陸別町教育委員会
天文台だより　Vol.41～43
史跡ユクエピラチャシ跡－平成14～20年度発掘調査報告書－
りくべつ宇宙科学地球館
りくべつ宇宙科学地球館年報　第4号
足寄動物化石博物館
博物館だより　№90～97
上士幌町ひがし大雪博物館
上士幌町ひがし大雪博物館研究報告　第30号
神田日勝記念館
神田日勝記念館だより　25
画室　Vol.32・33
幕別町教育委員会
札内Ｋ遺跡Ⅲ
帯広市教育委員会
帯広市古建築調査書XVII　真具天光堂・倉庫
ふるさとの語り部　第21号
帯広百年記念館
帯広百年記念館紀要　第26号
帯広・大正遺跡群３
帯広大谷短期大学
帯広大谷短期大学紀要　第45号
Ｓｅａｒｃｈ！‘2007,
Ｓｅａｒｃｈ！‘2008,
帯広開発建設部
時をこえて十勝の川を旅しよう！
㈶河川環境管理財団　北海道事務所帯広支店
十勝川資料館だより　第13号

広尾町教育委員会
音調津２遺跡
大津・十勝川学会
大津十勝川研究　第６号
浦幌ヒグマ調査会
浦幌クマ便りvo1.10、ｎｏ.1
高橋悦子
ことぶき大学俳句（平成20年度）合同句集・ことぶき
浦幌町立浦幌中学校
平成19年度　職業体験学習報告書
2007年度　職業調べレポート
浦幌町ライオンズクラブ
浦幌町ライオンズクラブ　創立45周年誌

【青　森　県】

青森県立郷土館
調査研究年報　第32号
青森県立郷土館報　平成20年度版
青森県立郷土館研究紀要　33号
青森県立郷土館だより　第142～145号
青森県教育委員会
特別史跡三内丸山遺跡年報　１Ｉ
三内丸山遺跡　33
三内丸山遺跡　34
三内丸山通信　第45号

【岩　手　県】

一関市博物館
一関市博物館研究報告　第11号
岩手県立博物館
平成19年度　岩手県立博物館年報
岩手県立博物館だより　№117～120
北上市立博物館
博物館だより　№29
宮沢賢治記念館
宮沢賢治記念館通信　第97～98号
平成19年度　宮沢賢治記念館年報
大船渡市立博物館
荒れ狂う海・津波の記憶

【宮　城　県】

仙台市富沢遺跡保存館
仙台市富沢遺跡保存館研究報告　11
特別企画展　陸奥国大戦争時代－蝦夷と住民－
地底の森ミュージアム縄文の森広場年報　2008
東北電力株式会社
白い国の詩　602号

【山　形　県】

山形県立うきたむ風土記の丘考古学資料館
2006年報　№15
第16回企画展　羽国ができるころ
うきたむ　第30・31号

【新　潟　県】

十日町市教育委員会
文化財課年報　12
新潟県立歴史博物館
新潟県立歴史博物館研究紀要　第９号

【埼　玉　県】

春日部市郷土資料館
粕壁宿と日光道中Ⅱ
跡見学園女子大学花蹊記念資料館
にいくら　№13

【千　葉　県】

和洋女子大学文化資料館
和洋女子大学文化資料館博物館学課程年報　2007年度
国立歴史民俗博物館
旅－江戸の旅から鉄道旅行へ－
「染」と「織」の肖像
市立市川考古博物館
市立市川考古博物館報　第35号
千葉県立中央博物館
千葉県の食虫植物
千葉県立中央博物館研究報告　人文科学　第10巻　第2号
千葉大学文学部考古学研究室
伊茶仁ふ化場第１遺跡 第４次発掘調査概報
城西国際大学物質文化研究センター
物質文化研究　第５号

野田市郷土博物館
野田の夏祭りと津久舞
野田市郷土博物館市民会館年報・紀要　第1号

【東　京　都】

東京家政学院生活文化博物館
東京家政学院生活文化博物館年報　第18号
写真展　あの頃、あの時

東京大学総合博物館
東京大学総合研究博物館ニュース　第33～35号

江戸東京博物館
江戸東京博物館ＮＥＷＳ　vol.61～64

豊島区立郷土資料館
かたりべ　№90～91

明治大学博物館
明治大学博物館研究報告　第13号
明治大学博物館年報　2007年度

明治大学学芸員養成課程
明治大学学芸員養成課程年報　23
明治大学学芸員養成課程紀要　19

駿台史学会
駿台史学　第135号

立正大学史学会
立正史學　第103・104号

法政大学史学会
法政史学　第69・70号

法政大学国際日本学研究所
HOSEI　Ｉ.Ｊ.Ｓ.№８・９

青山学院大学文学科研究室
青山史　第26号

國學院大學考古学資料館
國學院大學考古学資料館紀要　第24輯
國學院大學考古学資料館紀要　第25輯
阿部和彦氏寄贈資料図録Ⅱ　懸仏・仏具
考古学資料館紀要　2007

國學院大學研究開発推進機構
國學院大學研究開発推進機構ニュースVo1.1№2
伝統文化のモノと心　№２
阿部和彦氏寄贈資料図録Ⅲ　仏像・仏具・考古資料
錦絵はいかにつくられたか

お茶の水大学学芸員課程
博物館実習報告　第24号

出光美術館
出光美術館報　142～145

㈶日本博物館協会
博物館の評価機関等に関するモデル調査研究報告書
博物館の評価基準に関する調査研究

世田谷区立郷土資料館
漢詩人岡本黄石乃生涯　第三章　三百篇の遺意を得る者
世田谷叢書　第三集
資料館だより　№49・50

板橋区立郷土資料館
企画展　板橋と光学

文化環境研究所
Ｃutivate №33
文環研レポート第26号

地方史研究協議会
地方史研究　第333号

（独）国立文化財機構東京文化財研究所
無形民俗文化財映記録作成の手引き

㈱河川情報センター
PORTAL　№72

㈲むし社
月刊むし　№452

【神　奈　川　県】

川崎市市民ミュージアム
川崎市市民ミュージアム紀要　第20集

横浜市歴史博物館
横浜市歴史博物館ニュース　№26

平塚市博物館
平塚市博物館年報　№31
自然と文化　№31

神奈川大学日本常民研究所
2008年度　神奈川大学日本常民研究所年報
民具マンスリー　第41巻1～12号

【長　野　県】

飯田市美術博物館
飯田市美術博物館年報　第17号

飯田市美術博物館研究紀要　第18号
伊那谷自然史論集　vol.９

田中芳男の胸像制作を願う市民会議

田中芳男十話・経歴談
田中芳男は何をした人か
郷土の偉人　田中芳男

【富　山　県】

氷見市立博物館

氷見市立博物館年報　第26号
中村屋文書　その７　町政関係史料（二）
特別展　薮田石のかたち－石造物が語る中世－
特別展　食の風景－つくる・たべる・たくわえる－

富山市日本海文化財研究所

富山市日本海文化財研究所報　第40・41号
富山市日本海文化財研究所紀要　第21号
日本海文化研究所公開講座平成20年度記録集
祭りと信仰からみた日本海文化Ⅰ

魚津市教育委員会

天神山遺跡発掘調査報告書

【福　井　県】

南山大学人類学博物館

南山大学人類学博物館紀要　第26～27号

【滋　賀　県】

滋賀県立琵琶湖博物館

ファーブルにまなぶ
うみんど　第46号
うみっこ　第23号

【京　都　府】

同志社大学歴史資料館

同志社大学歴史資料館報　第11号

古代学協会

土車　第116号

【奈　良　県】

㈶水平社博物館

㈶水平社博物館研究紀要　第10号
ルシファー　第11号

天理大学附属天理参考館

天理参考館報　第21号

（独）奈良文化財研究所

奈良文化財研究所概要　2008
奈良文化財研究所紀要　2008
埋蔵文化財ニュース　129～133

奈良大学文学部文化財学科

文化財学報　第25・26集

【大　阪　府】

大坂大谷大学博物館

博物館だより　№103～104
埴輪論考１
西都原Ⅰ

大阪大谷大学

大坂大谷大学文化財研究　第８号
志学台考古　第８号

関西大学博物館

関西大学博物館紀要　第14号
北大阪ミュージアム・ネットワークの構築事業
実施報告書
北大阪ミュージアム・ネットワーク～地域産業
と文化遺産～
阡陵　№56・57

大坂市立自然史博物館

大阪市立自然史博物館報　第28～32号

【兵　庫　県】

姫路市立城郭研究室

姫路市立城郭研究室年報　Vol.18

㈶竹中大工道具館

竹中大工具館だより　№19・20

【広　島　県】

熊谷製作所

抜萃のつゞり　その68

【島　根　県】

島根県立古代出雲歴史博物館

しまねの古代文化　第14号
古代文化研究
島根県立古代出雲歴史博物館ＮＥＷＳ　vol.５

【山　口　県】

下関市立考古博物館

研究紀要　第12号
下関市立考古博物館年報　13
動物とのかかわり－先史時代の動物利用－
あやらぎ　№20

Ⅳ．資料の提供

貸　出　先	浦幌小学校
資　料　名	浦幌町無形文化財浦幌開拓獅子舞CD-ROM、北海道浦幌町獅子舞交流会・63年文化祭浦幌町VHS
目　　的	小学校の獅子舞クラブでの活用
期　　間	平成20年６月25日～平成20年７月25日

Ⅴ．博物館の事業

分類	事　業　名	事業内容	場　所	期　日	備　考
収集	旧資料の登録化	郷土博物館からの資料引継ぎ	博物館	通年	
	新資料の登録化	新資料・寄贈資料の整理登録化	博物館	通年	寄贈　117点 収集　　47点
	図書資料の収集	図書資料の収集	博物館	通年	受贈　272点
	新聞資料の収集	新聞資料の整理	博物館	通年	カード化
保存	昆虫標本の作成・保存	チョウの採集・標本化	博物館	夏季	採集　138
展示	巡回展	帯広百年記念館移動展「音の博物館：なつかしのレコード展」	養護老人ホーム	10/22	記念館ボランティア
		帯広百年記念館運営連絡協議会移動展「とかちを記録する」	博物館	11/13～11/22	120人　記載のみ
	小企画展	自然の姿と風景写真展	博物館	4/1～4/15	46人　記載のみ
		収蔵資料展（端午の節句展）	博物館	4/17～5/3	撮影会　11人
		真夏の残像・・あの夏の熱き想い・・戦争体験を伝える	博物館	8/７～19	106人　記載のみ
		アイヌ文化伝承工芸品展	博物館	12/9～22	65人　記載のみ
		フォトサークル・21 10周年記念写真展	博物館	9/17～30	67人　記載のみ
		2009年賀状展	博物館	1/21～2/6	69人　記載のみ
		収蔵資料展（雛人形展）	博物館	2/19～3/3	撮影会　25人
調査	古文書解読	教育雑件（大正15年・昭和元年）	博物館	通年	博物館ボランティア
	浦幌野生動物調査			通年	
教育普及	博物館講座の開設	ニードル・フエルト教室	博物館	6/10	講師：今村恭子 ９人参加
		草履づくり体験教室	博物館	7/14	講師：下坂マツエ・福田ふさ子 13人参加
		蝶採集と標本づくり教室	森林公園外 博物館	7/26 8/9	講師：円子紳一 ２人参加
		夏休み木工教室	十勝森づくりセンター	7/30	十勝森づくりC職員 45人参加
		わが町魅力再発見移動フォーラム K/T境界層・旧浦幌炭砿見学会	川流布常　室	8/10	講師：澤村　寛・高橋悦子 79人参加
		むかしのくらし体験教室	博物館	11/29	講師：佐々木　勇 和田　功
		レザークラフト教室	博物館	3/19	講師：前田　榮 ７人参加

分類	事　業　名	事業内容	場　所	期　日	備　考
教育普及	移動博物館教室の開設	移動厳寒自然教室（厳寒期の小動物達の様子を探る）	豊　北	2/15	講師：武藤満雄・佐藤道人・差間正樹
	レファレンス業務		博物館	通年	
	「博物館年報」の発行	第９号・Ａ４判・52P・500部	博物館	3月	
	「博物館紀要」の発行	第９号・Ａ４判・43P・500部	博物館	3月	
研修等	博物館協議会の開催	館長の諮問機関・年2回	教育文化センター	5/28 3/18	
	帯広百年記念館運営連絡協議会総会	帯広百年記念館運営連のための連絡協議体	帯広百年記念館	5/30	亀山教育次長出席
	道東3管内博物館施設等連絡協議会総会		釧路市立博物館	6/4	佐藤館長出席
	博物館交流推進会議		根室市	11/8～9	佐藤館長出席
	文書等保存利用機関団体等職員研修会		札幌市	12/2	佐藤館長出席
研究者等受入	職場体験学習	新聞資料カード化･収蔵資料クリーニングほか	博物館	6/3	浦幌高学校　２名
	帯広百年記念館	縄文土器の年代測定調査	博物館	9/9	山原敏朗
	職場体験学習	新聞資料カード化･収蔵資料クリーニングほか	博物館	10/28･31	浦幌中学校　１名
	日本大学	ヒグマ研究・エゾシカ研究	博物館	随時	

PL.1　自然の姿と風景写真展
（H20.4.1～15）

PL.2　端午の節句写真撮影会
（H20.5.3）

PL.3　ニードル・フエルト教室
（H20.6.10）

PL.4　草履づくり体験教室
（H20.7.14）

PL.5　チョウ採集と
標本づくり教室
（H20.7.26・8.9）

PL.6　チョウ採集と
標本づくり教室
（H20.7.26・8.9）

PL.7　小企画展
真夏の残像…あの夏の熱き想い
…戦争体験を伝える
（H20.8.7～19）

PL.8　恐竜絶滅の謎を探る
K/T境界層見学会
（H20.8.10）

PL.9　恐竜絶滅の謎を探る
K/T境界層見学会
（H20.8.10）

PL.10 フォトサークル・21
10周年記念写真展
（H20.9.17～30）

PL.11 巡回展
「昔の博物館：なつかしのレコード」
（H20.10.22）

PL.12 浦幌中学校職業体験
（H20.10.28）

PL.13 博物館見学
（H20.11.13）

PL.14　移動展
とかちを記録する
（H20.11.13～22）

PL.15
むかしのくらし体験教室
（H20.11.29）

PL.16
アイヌ文化伝承工芸展
（H21.12.9～22）

PL.17　2009年年賀状展
（H21.1.21～2.6）

PL.18
移動自然厳寒体験教室
（H21.2.15）

PL.19 ひなまつり撮影会
（H21.3.1）

PL.20　レザークラフト教室
（H21.3.19）

Ⅵ．レファレンス業務

2008年度において、照会などのあった内容は概ね次のようなものである。

○浦幌炭砿の馬車軌道・炭住について
○K-T境界について
○熊谷農場事務所跡について
○豊北トーチカについて
○共栄B遺跡玦状耳飾について
○馬産地浦幌（馬産）の歴史について
○浦幌神社の稲荷について
○太平洋戦争が終わる頃、浦幌町民たちの生活状況はどのようであったか

Ⅶ．博物館ボランティア

博物館活動の一環として、博物館ボランティアによる活動がある。博物館ボランティアの業務は、①資料整理等の補助業務　②新聞資料等の整理　③博物館図書の登録と整理　④簡易な展示解説　⑤調査研究活動の補助　⑥その他館長が適当と認めた業務等が想定されるが、本館では①～③業務を主に行い、他に古文書解読も行われている。現在の登録者は6名であるが、日常的に活動している者は2名である。

なお、古文書解読の成果は、「浦幌町立博物館紀要」第10号に掲載した。

●博物館ボランティア活動日数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実　人　数	16	9	7	11	8	6	2	4	5	8	14	20	110
延　人　数	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	2	2	20

●博物館ボランティア登録者

北　町	春日　基江	住吉町	三浦　直春	栄　町	橋本　友子	宝　町	佐藤　明美
十勝太	市川　藤子	万　年	坂下　禮子				

Ⅷ. 博物館日誌（抄）

平成20年

４月１日㈫　町辞令交付式。４月定例管理職会議。教育委員会辞令交付式。
企画展「自然の姿と風景写真展」開催（～15日）。
４月17日㈭　博物館収蔵展「端午の節句」開催（～５月３日）。
４月21日㈪　定例校長会議。
４月24日㈭　定例教頭会議。
４月24日㈭　日本大学ヒグマ研究グループ小林喬子・伊藤哲治・中村秀治氏来館。
４月24日㈭　第４回定例教育委員会
４月25日㈮　厚内小学校、博物館学習。浦幌ヒグマ調査会事務局長佐藤喜和氏来館。日本大学ヒグマ研究グループ小林喬子・伊藤哲治・中村秀治氏来館。
４月30日㈬　日本大学ヒグマ研究グループ小林喬子・中村秀治・菱山真美・大貫麻衣子氏来館。
５月１日㈭　５月定例管理職会議。
５月３日㈯　端午の節句写真撮影会。
５月16日㈮　浦幌町議会総務文教厚生常任委員会所管事務調査。
５月19日㈪　第５回定例教育委員会。
５月21日㈬　定例校長会議。定例教頭会議。
５月28日㈬　浦幌町博物館協議会開催（図書館協議会と合同開催）。
５月30日㈮　亀山教育次長、帯広百年記念館運営連絡協議会総会出席。
６月２日㈪　６月定例管理職会議。日本大学ヒグマ研究グループ小林喬子氏来館。
６月３日㈫　浦幌高等学校青木恵・東希美氏、職業体験学習。
６月４日㈬　佐藤館長、道東３館内博物館施設等連絡協議会総会出席。
６月10日㈫　幕別町札内寿会老人クラブ、団体見学。
６月12日㈭　東京農工大学生物システム応用科学府客員教授福井隆氏来館。
６月14日㈯　帯広百年記念館・帯広図書館、団体見学。
６月19日㈭　高文連十勝支部理科専門部野外研修会、帯広西20条５丁目長寿会、団体見学。
６月20日㈮　第６回定例教育委員会。
６月23日㈪　定例校長会議。
６月26日㈭　日本大学ヒグマ研究グループ小林喬子・清原覚氏来館。元博物館実習生清瀬うつき氏来館。
６月30日㈪　定例教頭会議。
７月１日㈫　７月定例管理職会議。日本大学ヒグマ研究グループ小林喬子・中村秀治氏来館。
７月10日㈭　釧路市鳥取丹頂老人クラブ、団体見学。
７月11日㈮　幕別町立忠類小学校４年生、団体見学。日本大学ヒグマ研究グループ小林喬子氏来館。
７月13日㈰　活平老人クラブ、団体見学。
７月14日㈪　博物館講座「草履づくり体験教室」開催。日本大学ヒグマ研究グループ中村秀治氏来館。
７月23日㈬　定例校長会議。定例教頭会議。

７月24日㈭　第７回定例教育委員会。
７月26日㈯　博物館講座「蝶採集と標本づくり教室」蝶の採集開催。
７月29日㈫　佐藤館長、企画店資料借用のため本別歴史民俗博物館へ出張。
７月30日㈬　夏休み子ども木工教室開催。
８月１日㈮　茨城県立鉾田農業高校実習生、団体見学。８月定例管理職会議。
８月７日㈭　小企画展　真夏の残像・・あの夏の熱き想い「戦争体験を伝える」開催（～19日）。
８月９日㈯　小企画展　真夏の残像・・あの夏の熱き思い「戦争体験を伝える」「語り部の会」講師山岸末吉氏。博物館講座「蝶採集と標本づくり教室」標本づくり開催。
８月10日㈰　わが町魅力再発見移動フォーラムＫ/Ｔ境界層見学開催。
８月12日㈫　浦幌ヒグマ調査会事務局長佐藤喜和氏来館。
８月20日㈬　佐藤館長、企画店資料返却のため本別歴史民俗博物館へ出張。浦幌ヒグマ調査会事務局長佐藤喜和氏来館。
８月22日㈮　第８回定例教育委員会。
８月25日㈪　定例校長会議。定例教頭会議。
８月26日㈫　日本大学ヒグマ研究グループ小林喬子・岸本祐樹氏来館。
８月28日㈭　浦幌町デイサービスセンター、団体見学。日本大学ヒグマ研究グループ小林喬子・中村秀治氏来館。
８月29日㈮　浦幌小学校４年生、博物館学習。
９月１日㈪　９月定例管理職会議。
９月５日㈮　日本大学ヒグマ研究グループ中村秀治氏来館。
９月９日㈫　帯広百年記念館山原敏朗氏、縄文土器年代測定調査のため来館。
９月10日㈬　日本大学ヒグマ研究グループ中村秀治氏来館。
９月17日㈬　フォトサークル・21「10周年記念写真展」開催（～30日）。
９月25日㈭　第９回定例教育委員会。定例校長会議。
９月30日㈫　定例教頭会議。
10月１日㈬　10月定例管理職会議。
10月３日㈮　浦幌中学校教諭富田有氏、職業体験打合せのため来館。
10月22日㈬　帯広百年記念館移動展「音の博物館：なつかしのレコード」町養護老人ホームで開催。
10月24日㈮　第10回定例教育委員会。
10月25日㈯　釧路市美原宝樹会、団体見学。
10月27日㈪　浦幌中学校２年生神田祐吉君、職業体験打合せのため来館。
10月28日㈫　浦幌中学校２年生神田祐吉君、職業体験。浦幌中学校教諭富田有氏来館。
10月28日㈫　定例校長会議。
10月30日㈭　定例教頭会議。
10月31日㈮　浦幌中学校２年生神田祐吉君、職業体験。
11月４日㈫　11月定例管理職会議。日本大学ヒグマ研究グループ小林喬子氏来館。
11月７日㈮　大東文化大学国際関係学部教授篠田隆氏、馬産の歴史調査のため来館。高橋悦子氏来館。
11月８日㈯　佐藤館長、道東３館内博物館施設等連絡協議会平成20年度博物館交流推進会議出席。
11月12日㈬　釧路市美岬会、団体見学。
11月13日㈭　帯広百年記念館移動展「とかちを記録する」開催（～19日）。上浦幌中央小学校３・

４年生、博物館学習。
11月23日㈰　帯広百年記念館移動展「とかちを記録する」資料搬出。
11月25日㈫　第11回定例教育委員会。
11月26日㈬　定例校長会議。
11月29日㈯　博物館講座「むかしのくらし体験教室」開催。
12月２日㈫　12月定例管理職会議。11月定例教頭会議。
佐藤館長、文書等保存利用機関・団体等職員研修会出席のため札幌市へ出張。
12月９日㈫　企画展　アイヌ文化伝承工芸品展、開催（～22日）。
12月11日㈭　浦幌小学校２年生、博物館学習。浦幌町しらかば保育園、団体見学。
12月15日㈪　定例校長会議。
12月19日㈮　定例教頭会議。
12月22日㈪　第12回定例教育委員会。定例校長会議。定例教頭会議。
12月30日㈫　町仕事納め式。教育委員会仕事納め式。

平成21年

１月６日㈫　町仕事始め式。教育委員会仕事始め式。
１月21日㈬　2009年賀状展（～２月６日）
１月22日㈭　定例校長会議。定例教頭会議。
１月23日㈮　第１回定例教育委員会。
２月２日㈪　２月定例管理職会議。
２月15日㈰　博物館講座「移動自然（厳寒）体験教室」開催。
２月17日㈫　定例校長会議。定例教頭会議。
２月19日㈭　収蔵資料展「雛人形展」（～３月３日）。
２月23日㈪　第２回定例教育委員会。
３月１日㈰　収蔵展「雛人形展」写真撮影会。
３月２日㈪　３月定例管理職会議。
３月16日㈪　定例校長会議。定例教頭会議。
３月18日㈬　浦幌町博物館協議会開催（図書館協議会と合同開催）
３月19日㈭　博物館講座「レザークラフト教室」開催。
３月25日㈬　第３回定例教育委員会。

Ⅸ．博物館の利用状況

（1）博物館入館者の推移

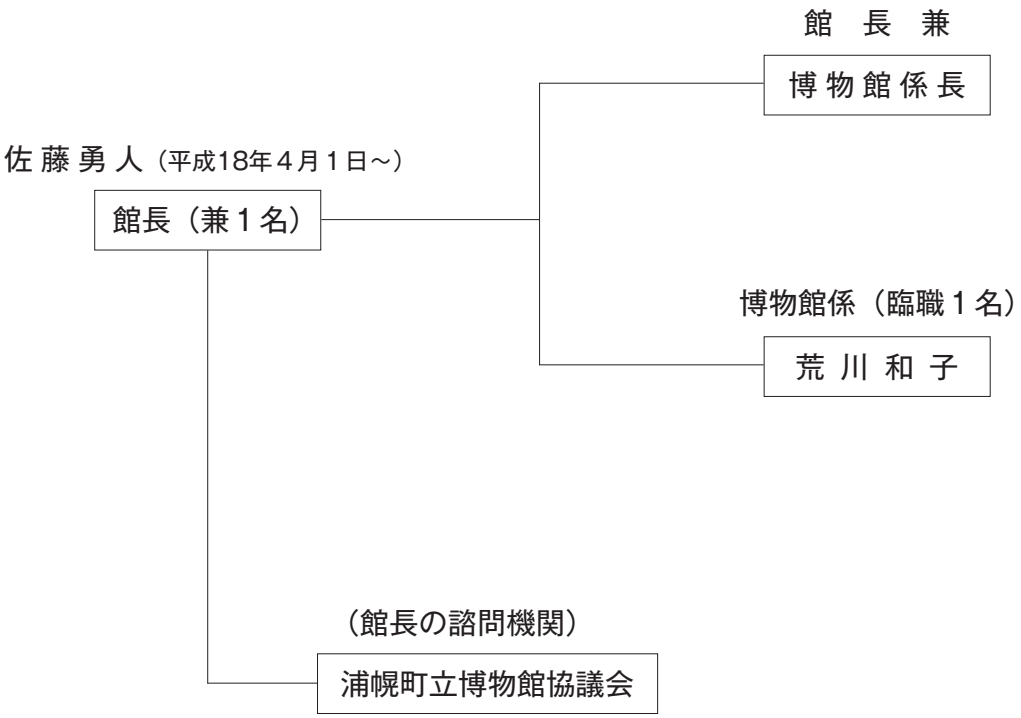
（平成21年３月31日現在）

	平成15年度		平成16年度		平成17年度		平成18年度		平成19年度		平成20年度	
月	開館日数	入館者数	開館日数	入館者数	開館日数	入館者数	開館日数	入館者数	開館日数	入館者数	開館日数	入館者数
4	25	830	25	566	25	667	25	990	25	630	25	725
5	26	746	24	649	23	498	24	912	25	561	25	602
6	25	744	26	661	26	908	26	541	26	785	25	843
7	27	871	26	971	27	1,000	25	762	26	857	27	817
8	27	1,232	26	1,024	26	1,167	27	883	27	1,115	27	1,022
9	24	681	25	917	25	812	24	611	26	881	24	588
10	27	666	27	768	26	867	26	775	26	639	27	589
11	26	744	23	691	24	1,342	25	474	24	525	25	764
12	23	608	25	556	26	655	24	372	25	583	24	652
1	23	336	22	531	22	522	22	428	22	371	23	497
2	24	764	23	623	23	743	24	477	25	476	23	300
3	25	1,104	27	932	26	1,018	26	812	25	662	25	752
小計	302	9,326	299	8,889	299	10,199	298	8,037	302	8,085	300	8,151
累計	1,279	44,542	1,578	53,431	1,877	63,630	2,175	71,667	2,477	79,752	2,777	87,903

（2）団体入館者（事前に連絡のあったもの）

４月25日	厚内小学校	７人
５月２日	浦幌幼稚園	20人
６月10日	札内寿会老人クラブ	46人
６月14日	帯広百年記念館	28人
６月14日	帯広図書館	５人
６月19日	高文連十勝支部料理専門部野外研修会	33人
６月19日	帯広市西20条５丁目長寿会	61人
７月10日	釧路市鳥取丹頂老人クラブ	16人
７月11日	幕別町立忠類小学校４年生	34人
７月13日	活平老人クラブ	16人
８月１日	茨城県鉾田農業高等学校	４人
８月28日	浦幌デイサービスセンター	15人
８月29日	浦幌小学校４年生	41人
10月25日	釧路市美原宝樹会	23人
11月12日	釧路市美崎会	28人
11月13日	上浦幌中央小学校３・４年生	11人
12月11日	浦幌小学校２年生	８人
12月11日	しらかば保育園	47人

X．博物館の組織



職　名	氏　　名	住　　所	備　　考
会　長	橋　本　友　子	栄町２区	
副会長	有　坂　一　子	住吉町2区	
委　員	高　橋　康　伸	住吉町1区	
〃	武　田　　悟	緑　　町	
〃	山　口　聰　史	新　　町	
〃	円　子　紳　一	北栄２区	
〃	春　日　基　江	北町２区	
〃	市　川　藤　子	十　勝　太	

（任期　平成21年12月18日まで）

XI．博物館活動のマスコミ報道

戦国時代のよろいも

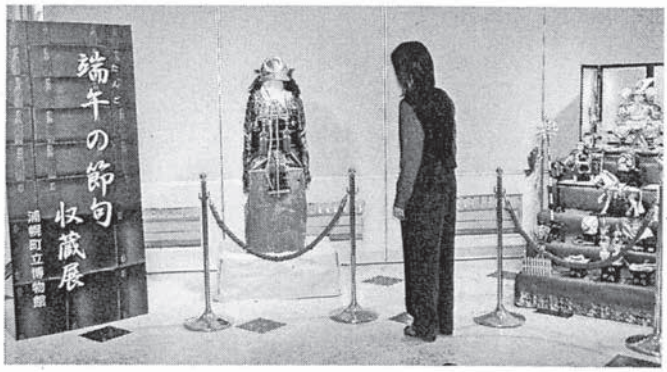
浦幌町立博物館 端午の節句収蔵展

【浦幌】町立博物館（教育文化センター1階）は、所蔵するよろいかぶとや五月人形を並べた「端午の節句収蔵展」を同センターロビーで開いている。5月3日まで。

展示されているよろいかぶと1組は、1968年に町民が寄付した。戦国時代に使われたものとみられている。このほか、現代の五月人形や、30年前の人気アニメキャラクターのメンコなども展示されている。

最終日の午後2時―同5時には、五月人形と一緒に写真を撮ることができ、同館が参加者に1枚プレゼントする。

展示は午前10時―午後5時。29日は休館。撮影会の問い合わせは同博物館（015・576・2009）へ。（大笹健郎）



関心を集める収蔵展

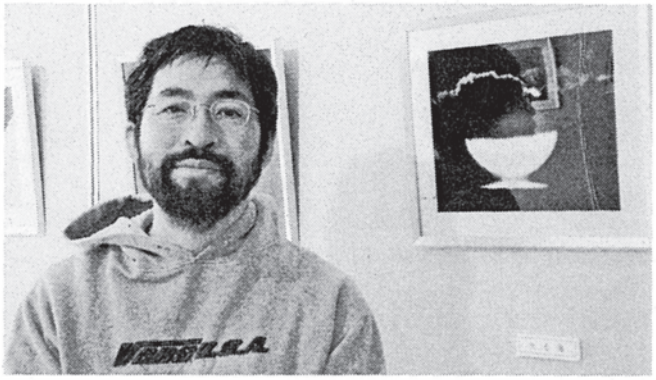
「十勝毎日新聞」　2008年4月26日

海や虫…厚内の風景40点

浦幌の大西さんが写真展

【浦幌】町厚内の酪農業、大西斉（ひとし）さん（45）の「自然の姿と風景写真展」が、町立博物館の企画展として教育文化センター（らぽろ21）1階ロビーで開かれている。地元厚内で撮影した約40点が並び、来場者の足を止めている。15日まで。

大西さんは浦幌フォトサークル21の会員。7年前から本格的に写真に取り組み、地元厚内の自然・風景を撮り続け、その魅力を掘り起こしている。昨年の全十勝写真公募展で特選に入ったほか、町の要覧にも作品を提供。帯広でも2回、個展を開いている。



ワイングラス形に見える太陽を写した作品と大西さん

「十勝毎日新聞」　2008年4月5日

10日ニードルフェルト教室

浦幌・町立博物館と中央公民館

【浦幌】町立博物館と中央公民館は、10日午後1時半から町教育文化センター2階学芸員室で「ニードルフェルト教室」を開く。

羊毛を丸めたり、専用の針を使って絡めるなどし、カエルのアクセサリーを製作する。講師は帯広市のニードルフェルト作家今村恭子さん。参加料500円。申し込み、問い合わせは同博物館（015・576・2009）へ。

「十勝毎日新聞」　2008年6月3日

恐竜絶滅の謎に迫る

10日に地層見学会

【浦幌】六千五百万年前に恐竜が絶滅したのは地球に小惑星が衝突し気候が激変したため、との学説を裏付ける地層「K／T境界層」の見学会が十日、日本で唯一この地層が見つかった十勝管内浦幌町北部の道有林内で開かれる。

地層は一九八六年に町内のモカワルップ川で発見された。地球表面には少ない元素「イリジウム」が含まれ、小惑星が衝突したショックで粉じんが降り注いだ証拠とされる。

三月に浦幌中生が地層をまちおこしに活用してはと提案し、十勝森づくりセンターが現地までの道路を整備。町と町博物館が初めて見学会を企画した。澤村寛・足寄動物化石博物館長が案内する。

午前九時に浦幌町博物館前を出発。旧浦幌炭砿も回る。保険料が一人百円。小学生以下は保護者同伴。長袖、長靴で昼食を持参。雨天中止。申し込みは六日までに浦幌町まちづくり政策課☎015・576・2112へ。

「北海道新聞」　2008年8月3日

戦争体験伝える手紙や資料展示

7日から浦幌町立博物館で企画展

【浦幌】町立博物館、町図書館の小企画展「真夏の残像…あの夏の熱き想い　戦争体験を伝える」が、7日から19日まで町教育文化センター特別展示コーナー（1階ロビー）で開かれる。

戦地から浦幌に送られた手紙や千人針など、戦争と戦時中の暮らしにかかわる資料100点以上を展示する。同センター内の図書館では、戦争にかかわる本約30冊を集めたコーナーを設ける。

9日午後1時半からは、2階ホールで映画「戦争童話集　忘れてはイケナイ物語り」を上映。同2時半からは特別展示コーナーで、戦争体験者を招いて「語り部の会」を開く。

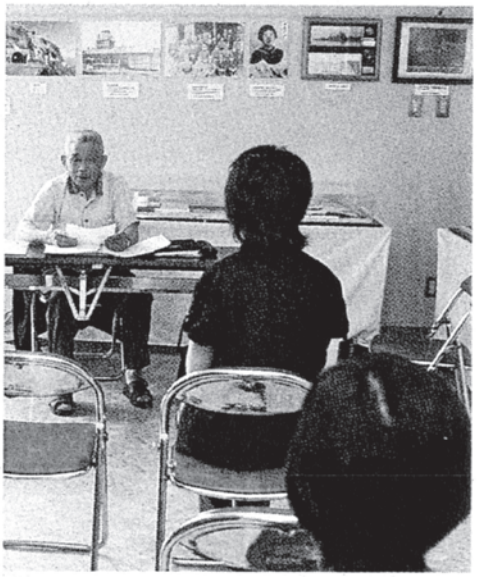
いずれも入場無料。期間内は無休。図書館は月・火曜日休館。問い合わせは同博物館（015・576・2009）、図書館（015・576・58333）へ。

「十勝毎日新聞」　2008年8月5日

戦時中の雰囲気再現

19日まで 企画展「真夏の残像」

浦　幌



町立博物館・図書館の戦争企画展で戦争体験を語った山岸さん（左）

【浦幌】町立博物館・図書館の小企画展「真夏の残像…あの夏の熱き想い『戦争体験を伝える』」が、教育文化センターで開かれている。太平洋戦争の実情を伝える収蔵品や町民の資料が並び、記憶を伝える「語り部の会」も開かれた。19日まで。

防空頭巾（ずきん）や軍隊手帳、寄せ書きで埋められた日章旗（毛利義雄氏寄贈）、町内で発見された三八式歩兵銃など、当時の雰囲気を生々しく伝える貴重な資料ばかり。浦幌空襲などの様子を伝えるパネルや写真ニュースも見られる。

「語り部の会」は9日に、町帯富の山岸末吉さん（88）を招いて開催。海軍で4年5カ月軍隊生活を送った山岸さんは、1940年に徴兵検査に合格し、浦幌駅から見送りを受けて出征した当時を振り返り、「家を出るとき、おやじもおふくろも涙ぐんでいた。日露戦争に参加した父は戦争がどんなものか知っていて、とても耐えきれなかったのだと思う」と話していた。

（小林祐己）

「十勝毎日新聞」　2008年8月11日

布使った草履づくりに挑戦

14日体験教室

【浦幌】博物館・公民館講座「草履づくり体験教室」が、14日午後1時から町教育文化センター2階学芸員室で開かれる。

町内の下坂マツヱさん、福田ふさ子さんを講師に、布を使った草履を作る。定員15人。参加無料。布、はさみ、目打ち、かぎ針、木綿糸などを持参する。大きなどは申し込み時に説明する。申し込みは7日までに町博物館（015・576・2009）へ。問い合わせも同じ。

「十勝毎日新聞」　2008年7月5日

浦幌のK／T境界層見学会

地球の歴史に思いはせる

80人が古代ロマン満喫

【浦幌】約6500万年前に起きた地球への小惑星衝突の痕跡とされる地層「K／T境界層」の見学会が10日、町川流布の現地で行われた。アジアで唯一、浦幌でのみ発見されている貴重な地層を見ようと町内外から約80人が集まり、恐竜絶滅の時代から現在につながる地球の歴史に思いをはせた。

澤村館長（右）から約6500万年前の地層（右下部分）について説明を受ける参加者

小惑星衝突の痕跡　アジア唯一の貴重な地層

同境界層は、恐竜が生きた白亜紀と哺乳（ほにゅう）類が発展した第三紀の地層間にある薄い粘土層。この時代を境に生物相の大きな変化が見られ、メキシコ・ユカタン半島への小惑星衝突が原因との説が有力視されている。

見学会は、希少金属イリジウムを含む同境界層について学んだ浦幌中3年生が今年3月、「町活性化に役立てられないか」と提言したことで実現。町が主催し、NPO日本のうらほろ、十勝森づくりセンターが協力した。

連くは網走市からの参加も含む参加者はバス3台で川流布会館に向かい、まず案内役の澤村寛・足寄動物化石博物館長から十勝の地史や境界層発見の経緯などを学習。さらに道有林を奥深く入った現地に向かい、川沿いのがけの地層に3―15㌢幅で黒く露出した境界層を見学した。

澤村館長は「黒い層は比較的短時間に、数日か長くて1カ月、地質としては瞬間的にできたもの。全世界でも二十数カ所しか見つかっていない」と説明。参加者からは「イリジウムは宇宙から来たのか」「右側の古い地層から恐竜の化石が出る可能性は」などの質問が出た。

帯広市から参加した和田哲也さん（62）は「6500万年前という時代を特定できるものが目の前にある。恐竜絶滅などに影響を与えたとされるものが、住んでいるすぐそばにあるのは感動的」と古代に思いを巡らせていた。（小林祐二）

「十勝毎日新聞」　2008年8月12日

環境激変した「証拠」に関心

地層の見学会

浦幌

【浦幌】六千五百万年前の恐竜絶滅の謎を解く決め手ともされる、中生代と新生代の境界層（K／T境界層）の現地見学会が、日本でこの地層が唯一発見されている浦幌町の道有林内のモカワルップ川で、このほど開かれた。

当初の定員の倍以上の80人が参加した地層見学会

十勝森づくりセンターが現地までの道路を整備し、町などが初めて企画。町民をはじめ、網走、釧路などから計八十人が参加した。

地層には、小惑星衝突を裏付ける元素「イリジウム」が含まれ、衝突時に生じた粉じんが太陽光線をさえぎって環境が激変し、恐竜絶滅につながったとの学説がある。

案内役を務めた足寄動物化石博物館の沢村寛館長が、当時深海の底にあった地層について解説。参加者は、環境激変の「証拠」に見入った。

沢村館長は、地球温暖化で減っているシロクマなどを例に出しながら身近な自然破壊に警鐘を鳴らし、「長い目で環境問題をとらえ、人類としての生き方を考えることが大事だと思う」と話した。

「北海道新聞」　2008年8月20日

浦幌の風景鮮やかに

町内写真サークルが展示

風景や鳥たちなどの鮮やかな作品が並ぶ写真展

【浦幌】浦幌に息づく生命と人々の生活風景を鮮やかにとらえた、「フォトサークル・21」の十周年記念写真展が、町教育文化センター一階ロビーで開かれている。

同サークルは、初心者講座で知り合った愛好家たちが、カメラの技術を高め合おうと一九九八年に結成。現在メンバーは五人で、月に一度集まり、作品の批評や撮影場所の情報交換を続けている。

ヒヨドリ、セイタカシギ、カワセミ、フクロウなどの鳥たちや麦畑、厚内漁港、東山の紅葉などを被写体に計四十点を展示した。初代会長佐藤俊一郎さんの遺作、大雪山脈の写真も。野鳥写真が得意な同サークルの春日基江会長(五二)は、「撮る側の楽しい気分が見る人に伝われば」。

会場のノートには「浦幌にこんな視界があるのだと感激した」との感想も寄せられている。無料。三十日まで。午前十時―午後五時。（大槻明永）

「北海道新聞」　2008年9月26日

10周年で記念写真展

浦幌 フォトサークル21

約40点が並ぶ記念写真展

【浦幌】町内の写真グループ「フォトサークル21」（春日基江会長）の10周年記念写真展が、町教育文化センター1階ロビーの特別展示室で開かれている。

同サークルは1998年結成。月1回、写真を持ち寄って批評するなどし、町内の老舗そば店「薮そば・かし和家」では会員5人が持ち回りで作品を展示している。

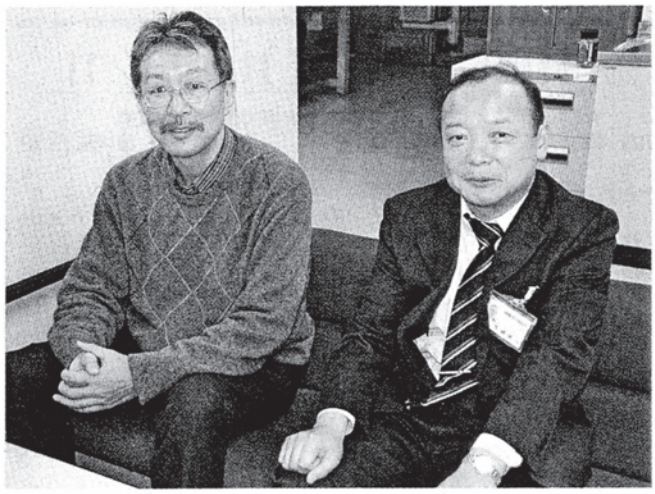
今回は初代会長の故佐藤俊一郎さんの4枚ほか、厚内地区の船みこしを写した大西斉さんの作品、フクロウを撮った小枝政夫さんの作品など約40点を展示。春日会長は『自由を楽しむ』をモットーに10年やってきた。見る人も自由な感性で楽しんで」と話している。午前10時―午後5時。30日まで。（大笹健郎）

「十勝毎日新聞」　2008年9月24日

浦幌 馬産の歴史を調査

大東大 篠田教授 戦前と現在比較

【浦幌】大東文化大学国際関係学部（埼玉県）の篠田隆教授（経済学博士）が、7日から浦幌町で馬産の歴史などを調査している。戦前に国が行った馬産地調査の記録と現在の様子を比較し、戦中・戦後の変遷を浮き彫りにする。成果は他の馬産地の調査結果と合わせて論文として発表する予定だ。



浦幌町立博物館を訪れた篠田教授（左）と佐藤館長

篠田教授は1981年から留学や研究調査のため通算10年以上インドに滞在、身分制度や家畜経済について研究を重ねている。著書に「インドの清掃人カースト研究」（春秋社）、編著に「発展途上国の経営変容（21世紀の民族と国家 第5巻）」（未来社）などがある。

現在は牛が生活文化に深く関わるインドと、軍馬生産で地域が発展した日本の馬産地について調査し、両国の戦前から戦後にかけての社会変動について研究している。

旧憲法の下で国が設置していた「馬政局」が、37―40年に浦幌、岩手県遠野市など国内9カ所の馬産地で行った調査の記録が現存する。篠田教授はその馬産地を訪問、フィールドワークを行っている。

7日は浦幌町立博物館（佐藤勇人館長）を訪問、館長や郷土史に詳しい町民の高橋悦子さんと会談。古い資料を見ながら、開拓以来の馬産の歴史をたどり、戦前の大規模農場や馬市の様子、馬の取引で商売を成功させた人々について聞き取りを行った。

篠田教授は「戦前、同時に調査された遠野市では現在馬を町おこしに活用するなどしている。十勝ではばんえい競馬など馬文化保存の動きがある一方、浦幌では馬を飼う人が極端に減っている。どのような社会的要因があったか研究したい」と話した。

教授は4日間十勝に滞在し、浦幌での現地調査などを行う予定。（大笹健郎）

「十勝毎日新聞」　2008年11月10日

歩くスキーでアザラシ眺める

豊北周辺海岸 町が体験教室

【浦幌】「豊北雪原と自然」雪氷原歩くスキー教室（町教委主催、町立博物館・中央公民館共催）がこのほど、町豊北周辺の海岸で開かれた。

町の博物館講座・移動自然（厳寒）体験教室として開催、町内外から23人が参加した。豊北原生花園のトーチカ跡付近に集合し、日本野鳥の会会員の武藤満雄さんが付近の自然を解説、体育指導委員の佐藤道人さんが歩くスキーの基本を教えて出発。十勝川河口を目指した。

好天で風も弱く、参加者は心地よい汗を流した。ゴマフアザラシやオオワシ、ホオジロガモも観察できた。

豊北海岸を歩くスキーで進む参加者

ゴール地点では大鍋で煮た豚汁などが用意され、参加者は道中を振り返りながら舌鼓を打った。幕別町の専門学校生、久保泰輝さん（19）は「歩くスキーは初めてだったが、普段、見慣れない景色の中を進めて楽しかった。来年も参加したい」と話していた。

（大笹健郎）

「十勝毎日新聞」　2009年2月26日

鮮やかな紋様並ぶ

博物館でアイヌ文化工芸品展

浦幌

【浦幌】町立博物館企画展「アイヌ文化伝承工芸品展」（同館、道ウタリ協会浦幌支部主催）が、同館ロビーの特別展示室で開かれている。22日まで。

鮮やかな紋様が刺しゅうされた作品が並ぶ展示会場

6―8月に開かれた「アイヌ文化実践上級講座」の受講者や、アイヌ文化振興・研究推進機構アドバイザー加藤シヅエさん（札幌）の作品合わせて約50点を展示。

刺しゅうと切り伏せで独特の紋様を作り上げた「ルウンペ」、紋様を切り抜いた白布を縫い付けた「カパラミプ」などの衣類や、テーブルセンターなどの布作品ほか、まな板や小刀などの木彫品の力作も並んでいる。午前10時―午後5時、月曜と祝日は休み。入場無料。

（大笹健郎）

防災・防犯設備
ご相談はフジ防災
電話23-8787 24時間受付中

「十勝毎日新聞」　2008年12月11日

レザークラフト教室参加者募集

19日、浦幌町立博物館で

【浦幌】町立博物館・町中央公民館は、町民を対象にしたレザークラフト教室の参加者を募集している。

同教室は、19日午後1時半から同博物館学芸員室（町教育文化センター2階）で開く。講師は日本手芸普及協会レザークラフト指導員の前田榮さん。教材費は1500円。目打ち、はさみを持参する。定員15人（先着順）。締め切りは16日。申し込みは同博物館（015・576・2009）か中央公民館（015・576・3095）へ。

「十勝毎日新聞」　2009年3月7日

昭和から現代のひな人形一堂に

浦幌町立博物館ひなまつり収蔵展

【浦幌】町立博物館の収蔵資料展「ひなまつり収蔵展」が、同館のある町教育文化センター1階ロビーで開かれている。

ひな人形が並ぶ収蔵展

昭和初期の御殿雛（ひな）から最近の7段飾りまでを展示。材質や表情など、時代とともに移り変わっていく様子が分かる。

同センター内の町立図書館では、ひな祭りに関する絵本や紙芝居も展示している。

展示は3月3日まで。午前10時―午後5時。同1日午後1時―同5時には、ひな人形と一緒に写真を撮ることができる。問い合わせは同図書館（015・576・5833）へ。

（大笹健郎）

「十勝毎日新聞」　2009年2月27日

Ⅻ．条例、教育委員会規則、教育委員会規程

○浦幌町教育文化センターの設置及び管理等に関する条例

（平成11年９月20日条例第20号）

（目的）

第１条　この条例は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条の２の規定に基づき、浦幌町教育文化センター（以下「センター」という。）の設置及び管理等に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

（設置）

第２条　センターは、町民の教育文化の振興発展と学術の向上を図るため設置する。

（名称及び位置）

第３条　センターの名称及び位置は、次のとおりとする。

名称　浦幌町教育文化センター

位置　浦幌町字桜町16番地の１

（教育機関）

第４条　センター内に次の教育機関を置く。

（１）　浦幌町立図書館（以下「図書館」という。）

（２）　浦幌町立博物館（以下「博物館」という。）

（図書館奉仕）

第５条　図書館は、おおむね次の各号に掲げる奉仕を行う。

（１）　図書、記録及びその他必要な資料（以下「図書館資料」という。）を収集し、町民の利用に供すること。

（２）　図書館資料の目録を整備すること。

（３）　図書館資料について、その利用のための相談に応ずること。

（４）　読書会及び研修会等を開催するとともに、その奨励を行うこと。

（５）　時事等に関する情報及び参考資料を紹介し及び提供すること。

（６）　学校、博物館、公民館等と緊密に連絡し、協力すること。

（図書館の職員）

第６条　図書館に館長及び司書、その他必要な職員を置く。

（図書館協議会）

第７条　図書館に浦幌町立図書館協議会（以下「図書館協議会」という。）を置く。

２　図書館協議会は、図書館の管理運営に関し必要な事項について調査審議するものとする。

３　図書館協議会の委員（以下「委員」という。）は、10名以内とし教育委員会が委嘱する。

４　委員の任期は２年とする。ただし、再任を妨げない。

５　補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（博物館の事業）

第８条　博物館は、おおむね次の各号に掲げる事業を行う。

（１）　実物、標本及びその他必要な資料（以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、展示すること。
（２）　博物館資料を博物館外で展示すること。
（３）　博物館資料の利用に関し必要な説明及び指導等を行い、又は研究室等を利用させること。
（４）　博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究及び保管、展示等の技術的研究を行うこと。
（５）　博物館資料に関する案内書及び解説書等を作成し、頒布を行うこと。
（６）　博物館資料に関する講演会及び研究会等を開催するとともに、その奨励を行うこと。
（７）　浦幌町にある文化財保護法（昭和25年法律第214号）の適用を受ける文化財について、解説書及び目録を作成し、町民の文化財の利用の便を図ること。
（８）　学校、図書館、公民館等と緊密に連絡し、協力すること。

(博物館の職員)

第９条　博物館に館長及び学芸員、その他必要な職員を置く。

(博物館協議会)

第10条　博物館に浦幌町立博物館協議会（以下「博物館協議会」という。）を置く。

２　博物館協議会は、博物館の管理運営に関し必要な事項について調査審議するものとする。

３　博物館協議会の委員の定数及び任期等については、第７条第３項から第５項の規定を準用する。

(報酬及び費用弁償)

第11条　委員が会議等に出席したとき又は公務により旅行したときは、非常勤特別職の職員の報酬等に関する条例（昭和31年浦幌町条例第19号）に定めるその他の委員会、協議会に相当する報酬及び費用弁償を支給する。

(利用の制限)

第12条　館長は、次の各号の一に該当する場合は、利用を禁止し、制限し、又は退館させることができる。

（１）　公の秩序又は善良な風俗を乱すおそれがあると認められるとき。
（２）　建物又はその設備を滅失し、損傷するおそれがあると認められるとき。
（３）　集団的に又は常習的に暴力的不法行為を行うおそれがある組織及びその構成員の利益になると認められるとき。
（４）　その他管理運営上支障があると認めたとき。

(損害賠償の義務)

第13条　利用者が建物及び設備又は図書館資料若しくは博物館資料をき損、汚損又は滅失したときは、教育委員会が定める損害額を賠償しなければならない。

(規則への委任)

第14条　この条例に定めるもののほか、必要な事項は教育委員会規則で定める。

附　則

１　この条例は、平成11年12月１日から施行する。

２　浦幌町郷土博物館設置条例（昭和44年浦幌町条例第21号）は、廃止する。

○浦幌町立博物館の管理、運営等に関する教育委員会規則

（平成11年12月１日教育委員会規則第４号）

（目的）

第１条　この教育委員会規則は、浦幌町教育文化センターの設置及び管理等に関する条例（平成11年浦幌町条例第20号。以下「条例」という。）第４条第２号に規定する浦幌町立博物館（以下「博物館」という。）の管理、運営等について必要な事項を定めることを目的とする。

（博物館協議会）

第２条　浦幌町立博物館協議会（以下「協議会」という。）の組織等については、浦幌町立図書館の管理、運営等に関する教育委員会規則（平成11年浦幌町教育委員会規則第３号）第２条の規定を準用する。

（開館時間）

第３条　常設展示室の開館時間は、午前10時から午後５時までとする。

２　前項の規定にかかわらず、館長が必要と認めたときはその時間を臨時に変更することができる。

（休館日）

第４条　常設展示室の休館日は次のとおりとする。

（１）　月曜日

（２）　国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）第２条に規定する休日

（３）　年末年始

（４）　その他館長が必要と認めた日

２　前項の規定にかかわらず、館長が必要と認めたときは休館日を臨時に変更することができる。

（常設展示室利用者の遵守事項）

第５条　利用者は、この教育委員会規則及び館長の指示に従うほか、次の各号に掲げる事項を遵守しなければならない。

（１）　許可なく博物館資料を撮影し、又は複製しないこと。

（２）　許可なく展示資料に手を触れないこと（特に指定した展示品を除く。）。

（３）　音読、高談その他騒がしい行為をしないこと。

（４）　飲食又は喫煙をしないこと。

（５）　展示品の近くでインク、墨汁等を使用しないこと。

（博物館資料の寄贈等）

第６条　博物館は、博物館資料の寄贈又は寄託を受けることができる。

２　博物館に博物館資料を寄贈又は寄託しようとする者は、浦幌町財務規則（昭和60年浦幌町規則第12号）第158条の規定にかかわらず館長に博物館資料寄贈（寄託）申込書（別記様式第１号）を提出し、承認を受けなければならない。

３　館長は、前項の提出があったときは遅滞なくその取扱いについて決定し、寄贈を受ける場合はその資料と引換えに博物館資料受領証（別記様式第２号）を寄贈者に交付しなければならない。また、寄託した者に対しては博物館資料受託証（別記様式第３号）を交付するものとする。

４　寄贈された博物館資料は理由のいかんを問わず返還しない。

(寄託博物館資料の返還)

第７条　寄託博物館資料は、博物館資料受託証と引換えに返還しなければならない。

(寄託博物館資料の損失責任)

第８条　博物館は、寄託された博物館資料が滅失若しくは紛失又は破損してもその責は負わないものとする。

(館外利用)

第９条　館長は、教育長の承認を得て、博物館の所蔵する博物館資料を他の博物館その他館長が適当と認めた者に館外貸出しをすることができる。ただし、寄託を受けた博物館資料については、原則として貸し出さないものとする。

(貸し出し期間)

第10条　前条に規定した博物館資料の貸し出し期間は、90日以内とする。

２　前項の規定にかかわらず、特に必要と認めたときは、博物館資料の貸し出し期間を延長することができる。

３　館長は、必要があるときは、貸し出し期間中であっても、博物館資料の返還を求めることができる。

(館外貸出しを受けた博物館資料の遵守義務)

第11条　博物館資料の貸出しを受けた者は、当該博物館資料を、承認を受けた利用の目的又は場所以外の目的又は場所以外で利用してはならない。

２　貸出しの許可を受けた者は、次の各号に掲げる事項を遵守しなければならない。

（１）　当該博物館資料が滅失し、又はき損したときは、当該博物館資料を原状に回復し、及びそれによって生じた損害を賠償すること。

（２）　当該博物館資料等の運搬及び維持管理に要する経費を負担すること。

（３）　承認を受けた利用目的又は利用の場所を変更しないこと。

（４）　貸出し満了期間までに指定された場所に返納すること。

（５）　前各号に掲げるもののほか館長が指示する事項。

(博物館資料の特別利用)

第12条　博物館資料を学術上の研究その他の目的のため撮影、複写、模写又は模造（以下「特別利用」という。）を行おうとする者は、あらかじめ、特別利用申請書（別記様式第４号）又はそれに類する書類を館長に提出し、承認を求めなければならない。

２　前項の規定により特別利用を承認したときは、特別利用承認書（別記様式第５号）を交付するものとする。

３　前項の場合において、当該博物館資料が寄託を受けたものであるときは、文書により寄託者の承諾を得なければならない。

４　特別利用は、館長の指示に従って行わなければならない。

(模写品等の刊行等の承認)

第13条　博物館資料を模写し、模造し、撮影し、又は複写したもの（以下「模写品等」という。）を刊行し、若しくは複製し、又は研究発表等に使用しようとする者は、あらかじめ、模写品等使用申請書（別記様式第６号）又はそれに類する書類を館長に提出し、承認を受けなければならない。

２　館長は、模写品等の使用を承認したときは、模写品等使用承認書（別記様式第７号）を交付するものとする。

（委任）
第14条　この教育委員会規則に定めるもののほか必要な事項は別に定める。

附　則
1　この教育委員会規則は、平成11年12月１日から施行する。
2　浦幌町郷土博物館設置条例施行規則（昭和44年浦幌町教育委員会規則第１号）は、廃止する。
3　旧教育委員会規則により現に、収集、保管及び館外貸出し等されている博物館資料は、この教育委員会規則に基づき収集、保管及び貸出し等されているものとみなす。

別記様式第１号

博物館資料寄贈（寄託）申込書

年　月　日

浦幌町立博物館長　様

住所

氏名　㊞

次のように、博物館資料を寄贈（寄託）したいので申し込みます。

記

１　寄贈、寄託資料

資料名	数量	摘要

２　寄託の場合、寄託期間
年　月　日から　年　月　日

別記様式第２号

博物館資料受領証

年　月　日

（申込者）　様

浦幌町立博物館長　印

寄贈の申込みのあった次の資料を受領します。今後は、申込みの趣旨を尊重し、学術資料として有効に活用させていただきます。

記

１　寄贈資料

資料名	数量	摘要

別記様式第３号

博物館資料受託証

年　月　日

（申込者）　様

浦幌町立博物館長　印

寄託の申込みのあった次の資料を受託します。今後は、申込みの趣旨を尊重し、学術資料として有効に活用させていただきます。

記

１　受託資料

資料名	数量	摘要

２　受託期間
年　月　日から　年　月　日

※寄託資料の返還は、この受託証と引換えに行います。

別記様式第４号

特別利用申請書

年　月　日

浦幌町立博物館長　様

申請者　住所

氏名　印

次のように浦幌町立博物館資料を特別利用したいので、申請します。

記

利用目的	
利用期間	年　月　日～　年　月　日（　日間）
利用方法	閲覧・模写・模造・撮影・複写・その他（　）

利用資料名	点数	備考

別記様式第５号

特　別　利　用　承　認　書

年　　月　　日

（申　請　者）　様

浦幌町立博物館長　　印

年　　月　　日申請の浦幌町立博物館資料の特別利用を、次のように承認します。

記

利用目的	
利用期間	年　　月　　日 ～　　年　　月　　日（　　日間）
利用方法	閲覧・模写・模造・撮影・複写・その他（　　）

利　用　資　料　名	点数	備　　考

注意　１　利用時間は、午前10時から午後５時までとする。
　　２　利用に当たっては、係員の指示に従うこと。
　　３　前項に違反したときは、承認を取り消すことがある。

別記様式第６号

受付番号	第　　号

模　写　品　等　使　用　申　請　書

年　　月　　日

浦幌町立博物館長　　様

申請者　住所（法人又は団体にあっては主たる事務所所在地）

氏名（法人又は団体にあっては名称及び代表者氏名）印

電話

次のように浦幌町立博物館資料の模写等をしたいので、申請します。

記

使　用　目　的		
模 写 等 区 分	模写・模造・撮影・複写	
製 作 等 区 分	刊行・複製・研究発表等	
作　品　名		
製　作　数		
予　定　価　格	有料（　　円）　・　無料	
製作予定年月日	年　　月　　日	
模写等資料名		

注）　刊行企画書、複製仕様書、研究発表会の開催要項等の参考資料があれば添付して下さい。

別記様式第７号

承認番号	第　　号

模　写　品　等　使　用　承　認　書

年　　月　　日

（申　請　者）　様

浦幌町立博物館長　　印

年　　月　　日申請の浦幌町立博物館資料模写等を、次のように承認します。

記

使　用　目　的		
模 写 等 区 分	模写・模造・撮影・複写	
製 作 等 区 分	刊行・複製・研究発表等	
作　品　名		
製　作　数		
予　定　価　格	有料（　　円）　・　無料	
製作予定年月日	年　　月　　日	
模写等資料名		

注）　１　上記使用目的以外に使用しないこと。
　　２　使用に際しては、浦幌町立博物館所蔵の旨を明記すること。

○浦幌町立博物館処務規程

（平成11年12月１日教育委員会規程第２号）

改正　平成13年６月29日教委訓令第５号
平成15年６月30日教委訓令第３号

（目的）
第１条　この教育委員会規程は、浦幌町立博物館（以下「博物館」という。）の機構と事務処理上必要な事項を定めることを目的とする。
（職員の職）
第２条　博物館に館長及び学芸員を置き、必要に応じて係長、主任、主査、主事その他の職員及び学芸員補を置くことができる。
（任免）
第３条　前条に規定された博物館の職員の任免は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第34条の規定に基づき、教育長の推薦により、教育委員会が行う。
（服務）
第４条　博物館の職員の服務は、別に定めるものを除き、浦幌町教育委員会事務局職員の例による。
（職務の分掌）
第５条　館長は、上司の命を受けて、館務を掌理し、所属職員を指揮監督する。
２　学芸員は、上司の命を受け、博物館法（昭和26年法律第285号。以下「法」という。）第４条第４項に規定する職務を行う。
３　係長は、上司の命を受け、係の事務を処理する。
４　主任は、上司の命を受け、館長が定める特定の事務を処理する。
５　主査は、上司の命を受け、担任事務を処理する。
６　主事及びその他の職員は、上司の命を受け、事務をつかさどる。
７　学芸員補は、法第４条第６項に規定する職務を行う。
（係の設置）
第６条　博物館に博物館係を置く。
（事務の分掌）
第７条　博物館係は、次の事務をつかさどる。
（１）　公印の管守に関すること。
（２）　人事、経理、文書その他庶務に関すること。
（３）　浦幌町立博物館協議会に関すること。
（４）　予算及び決算に関すること。
（５）　物品の出納及び管理に関すること。
（６）　施設設備の管理に関すること。
（７）　博物館資料の収集、保管及び展示に関すること。
（８）　博物館資料の説明及び助言等に関すること。
（９）　博物館資料の調査研究に関すること。

（10） 博物館資料の案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等の作成及び配布に関すること。
（11） 博物館事業の広報に関すること。
（12） 博物館事業の企画運営に関すること。
（13） その他博物館運営及び博物館資料に関する専門的事項に関すること。

第８条　削除

第９条　削除

（専決）

第10条　館長は、他に定めのあるものを除き、次の各号に掲げる事務について専決することができる。
（１） 施設設備の使用及び管守に関すること。
（２） 専用公印の管守に関すること。
（３） 関係団体の育成及び指導等に関すること。
（４） 博物館の行う恒例又は軽易な事業の企画運営に関すること。
（５） 前各号に準ずる軽易な事務処理に関すること。

第11条　前条各号に掲げる事項であっても、特に重要な事項又は取扱上異例に属する事項若しくは疑義のある事項の処理については、教育長の承認を受けて処理しなければならない。

（事業計画及び事業実績報告等）

第12条　館長は、当該年度に実施すべき年間の事業計画を教育長が別に定める日までに届け出るものとする。

第13条　館長は、当該年度に実施された年間の事業実績報告等を教育長が別に定める日までに報告しなければならない。

（帳簿）

第14条　博物館には、次の各号に掲げる簿冊を備え付け、常に適正に記帳、整備しなければならない。
（１） 博物館日誌（別記様式第１号）
（２） 備品台帳（収蔵されている博物館資料を除く。）
（３） 図書台帳
（４） 旅行命令簿
（５） 経理簿
（６） 会議日誌
（７） 出勤簿
（８） 公文書綴り
（９） 沿革史
（10） 博物館資料寄贈申込台帳
（11） 博物館資料寄託申込台帳
（12） 博物館資料受入台帳（別記様式第２号）
（13） その他館長が必要と認めた簿冊

（合議）

第15条　館長は、事務執行上異例又は重要と認められるものは、教育委員会事務局の関係課長等と合議しなければならない。

（公印）

第16条　博物館の文書に用いる印章（以下「公印」という。）は、次に掲げるとおりとする。

（１）　浦幌町立博物館協議会長の印

（２）　浦幌町立博物館の印

（３）　浦幌町立博物館長の印

２　前項の公印は、館長が保管する。

３　公印の規格、定位置及び定数は、別表のとおりとする。

４　公印の刻字面の様式は、別記様式第３号のとおりとする。

（文書の記号）

第16条の２　文書の記号は、教育委員会名及び博物館名をもって構成する。

２　前項の記号は、次のとおりとする。

浦博物

（博物館資料の受入れ）

第17条　博物館で受け入れた資料は、博物館資料受入台帳に所定の事項を記入し、その資料の由来等を調査後、速やかに博物館資料記録票を作成しなければならない。

第18条　前条の博物館資料には、その由来等を明らかにするために博物館資料整理カード（別記様式第４号）を貼付しなければならない。ただし、それによりがたい場合は、その他適当な方法でその由来等を明らかにしなければならない。

（準用規定）

第19条　この教育委員会規程に定めるもののほか、必要な事項は浦幌町教育委員会事務局処務規程（平成13年浦幌町教育委員会訓令第２号）を準用する。

（読替え規定）

第20条　浦幌町教育委員会事務局処務規程を準用する場合、「課長」とあるのを「館長」と読み替えるものとする。

附　則

１　この教育委員会規程は、平成11年12月１日から施行する。

２　この教育委員会規程施行の際に現に使用中の別記様式は、当分の間、従前のものを使用することを妨げない。

附　則（平成13年６月29日教委訓令第５号）

この教育委員会訓令は、公布の日から施行する。

附　則（平成15年６月30日教委訓令第３号）

この教育委員会規程は、平成15年７月１日から施行する。

別表（第16条第３項関係）

種　　別	規　　格	定数	定 位 置	個数	摘　要
浦幌町立博物館協議会長の印	18ミリメートル四方	1	博物館管理係	1	古天（横書き）
浦幌町立博物館の印	30ミリメートル四方	1	博物館管理係	1	古天（横書き）
浦幌町立博物館長の印	18ミリメートル四方	1	博物館管理係	1	古天（横書き）

別記様式第１号

決裁	館長	回議	係	合議
年　月　日（　）			天候	
寄贈等	博物館資料の寄贈	寄贈者	住所	品名数量等
	博物館資料の寄託	寄託者	住所	品名数量等
	博物館資料の返還	受領者	住所	品名数量等
事業等	事業名		～	特記事項
	事業名		～	特記事項
来館者	所属氏名		所属氏名	
	所属氏名		所属氏名	
団体入館者	団体名		人数	特記事項
	団体名		人数	特記事項
	団体名		人数	特記事項
職員動静	氏名	旅行先	目的	
備考				

浦　幌　町　立　博　物　館

別記様式第２号

受入番号	品名	受入月日	受入方法	寄贈者等住所・氏名	分類番号	収蔵番号	摘要
		月　日	寄贈・購入・寄託・製作・採集・発掘・複写・その他	住所　氏名			
		月　日	寄贈・購入・寄託・製作・採集・発掘・複写・その他	住所　氏名			
		月　日	寄贈・購入・寄託・製作・採集・発掘・複写・その他	住所　氏名			
		月　日	寄贈・購入・寄託・製作・採集・発掘・複写・その他	住所　氏名			
		月　日	寄贈・購入・寄託・製作・採集・発掘・複写・その他	住所　氏名			
		月　日	寄贈・購入・寄託・製作・採集・発掘・複写・その他	住所　氏名			
		月　日	寄贈・購入・寄託・製作・採集・発掘・複写・その他	住所　氏名			
		月　日	寄贈・購入・寄託・製作・採集・発掘・複写・その他	住所　氏名			

No.

浦　幌　町　立　博　物　館

別記様式第３号

1　浦幌町立博物館協議会長の印

2　浦幌町立博物館の印

3　浦幌町立博物館長の印

別記様式第４号

○

浦幌町立博物館

受入番号	―
収蔵番号	―
分類番号	
受入年月日	年　月　日
資料名	
寄贈者等名	
寄贈者等住所	
受入方法	寄贈・採集・発掘・寄託 製作・購入・複写・その他
摘要	

注）１　年号は西暦で記載すること。
　　２　「受入方法」は、適当なものを○で囲むこと。

Ⅲ．平成20年度予算

10款　教育費　５項　社会教育費　3目　博物館費

（単位:千円）

当初予算額	補正額	計	節 区分	節 金額	説明	
1,393	0	1,393	1 報酬	25	委員報酬	25
			8 報償費	64	報償金	64
			9 旅費	81	費用弁償	1
					普通旅費	80
			11 需用費	1,012	消耗品費	393
					印刷製本費	551
					光熱水費	18
					修繕料	50
			12 役務費	94	通信運搬費	84
					手数料	10
			18 備品購入費	89	備品購入費	89
			19 負担金、補助及び交付金	28	北海道博物館協会負担金	15
					帯広百年記念館運営連絡協議会負担金	3
					道東３管内博物館施設等連絡協議会負担金	5
					研修会参加負担金	5

浦幌町立博物館年報　第10号

発行日　2010年３月31日

編　集　小路谷　守　昌

発行所　浦幌町立博物館
〒089-5614　北海道十勝郡浦幌町字桜町16番地の１
電話　015-576-2009　FAX. 015-576-2452

印刷所　大同出版紙業株式会社
〒080-0017　北海道帯広市西７条南６丁目２番地